

平成 30 年度

業 務 年 報

宮城県農業・園芸総合研究所

平成30年度
宮城県農業・園芸総合研究所業務年報目次

I 概況

1	所在地	1
2	土地及び施設等	1
3	特許・品種登録等	2
4	沿革	3
5	組織及び職員	4
6	収入及び支出	6
7	職員の研修	7
8	図書蔵書	7
9	見学者等の受け入れ	7
10	生活環境保全林「高館いこいの森」	10

II 諸会議・行事等

1	宮城県試験研究機関評価委員会	11
2	宮城県農業関係試験研究推進会議	11
3	農業・園芸総合研究所成績検討会等	12
4	農業・園芸総合研究所試験研究推進会議	12
5	農業・園芸総合研究所連絡調整会議	14
6	3機関連絡協議会	14
7	各種委員会	14
8	全国及び東北地域の検討会・研究会等への出席	16

III 研究成果の普及広報

1	普及に移す技術(第94号)の提案	23
2	試験研究成果報告会等	25
3	成果情報等提出課題	26
4	研究報告・学会誌等発表	27
5	表彰等	28
6	刊行物・広報・普及資料の発行及び配布	29
7	関係機関への講師派遣状況	29
8	展示, その他広報	30

IV 試験研究の概要

1	平成30年度農業関係試験研究の基本方針及び主要目標	33
2	平成30年度農業関係試験研究主要課題	36
3	平成30年度農業関係試験研究課題体系図	40
4	各部の概要	49

I 概 況

1 所在地（平成30年4月1日現在）

所在地		位置		
		東 経	北 緯	標 高
農業・園芸総合研究所	宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地	140° 51'	38° 10'	46.038m
〃	岩沼分庁舎 宮城県岩沼市字東谷地1番地	140° 51'	38° 07'	5.000m

2 土地及び施設等

1) 土地

(単位：㎡)

名 称	区 分	水田	畑	宅地等その他	計
農業・園芸総合研究所		101,285.82	8,720.00	852,809.21	962,815.03
農業・園芸総合研究所借用地		31,799.29	31,870.04	2,713.77	66,383.10

2) 施設(建物)

(1) 農業・園芸総合研究所

区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)
一般管理施設	13	8,644.79	ほ場管理用施設	16	2,707.88
本館	1	7,965.10	堆肥舎	2	802.73
倉庫	1	180.00	作業舎	6	1,207.32
車庫	3	352.60	その他	8	697.83
その他	8	147.09			
研究用施設	47	7,942.31	研修用施設	6	4,513.01
植物バイオ館	1	634.12	研修宿泊棟	1	2,567.80
管理収納舎温室	8	1,304.17	トラクター格納庫	1	630.00
農産加工研究棟	1	443.40	機械整備舎	1	517.00
乾燥舎	5	706.66	露地野菜研修施設舎	1	442.20
網室	5	976.02	機械性能検定舎	1	349.80
貯蔵選別舎	1	210.60	その他	1	6.21
育苗棟	1	185.39			
バイオトロン舎	1	110.00			
鉄骨ハウス等	9	2,115.60			
その他	15	1,256.35	合 計	82	23,807.99

(2) 岩沼分庁舎

区分	棟数	面積(㎡)	区分	棟数	面積(㎡)
一般管理施設	1	367.47	ほ場管理用施設	14	1,627.01
本館	1	367.47	堆肥舎	3	353.20
研究用施設	13	2,094.39	収納舎	2	509.14
網室	4	973.44	その他	9	764.67
温室	4	468.26			
原種等調製・貯蔵舎	1	406.23			
その他	4	246.46	合 計	28	4,088.87

3 特許・品種登録等（平成31年3月31日現在）

1) 特許・実用新案の出願及び登録

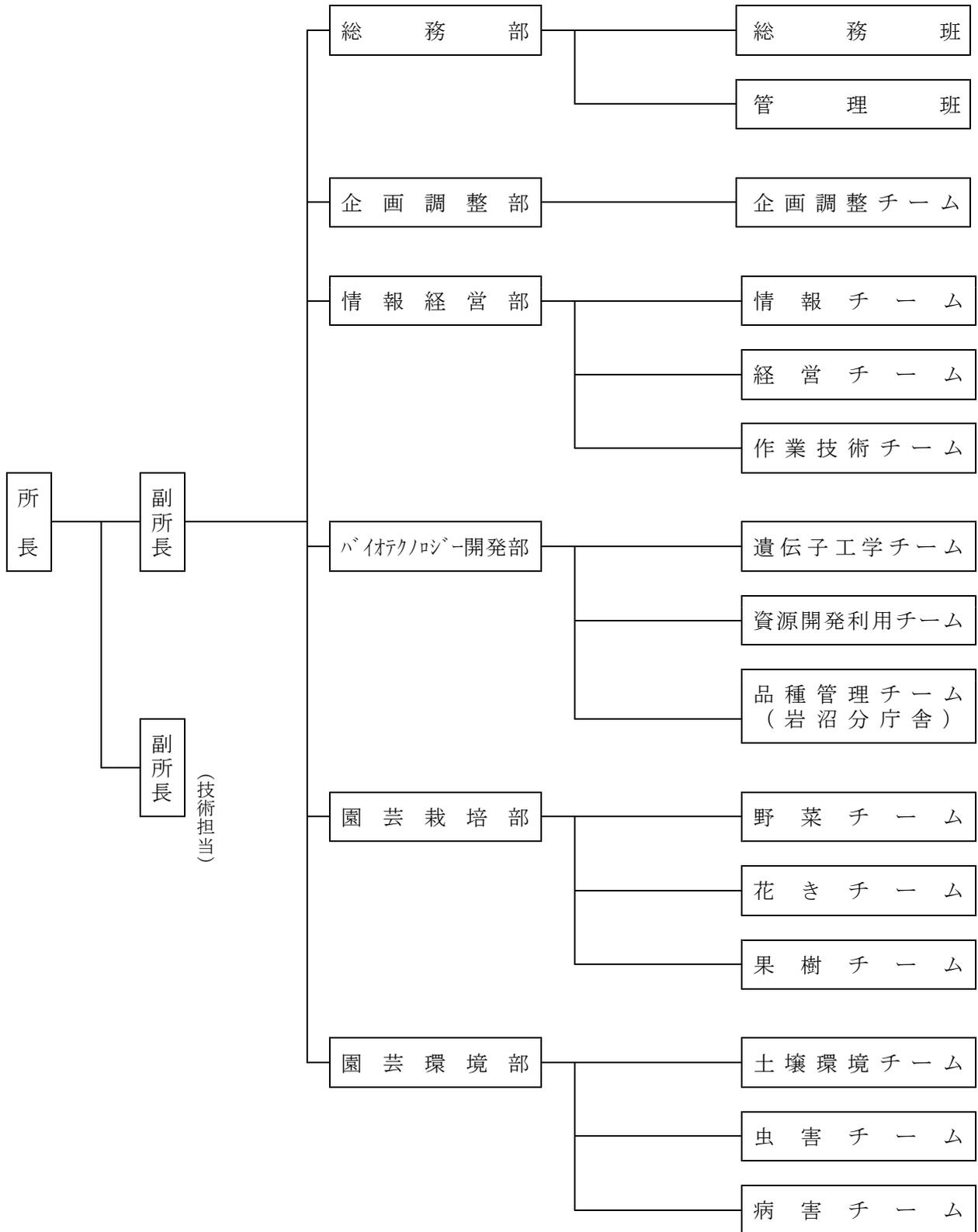
特許等の名称	発明考案者	出願年月日	登録年月日	登録番号 (出願公開)	備考
農作業用台車および農作業用椅子	山村真弓, 相澤正樹, 小野隆夫	H17. 7. 7	H23. 3. 4	第4691724号	
中腰作業補助装置	相澤正樹, 鈴木賢次 ((有)電気工作業の鈴木), 横井浩史 (東京大学), 西村昭男 (室蘭市), 高橋保行 (苫小牧市テクノ センター), 大原巧 (同)	H19. 7. 24	H23. 11. 4	第4852691号	
移動栽培装置	岩崎泰永, 漆山喜信, 林茂彦 (生研センター), 奈古屋隆人 ((株)誠 和), 加納賢三 (同)	H20. 9. 5	H25. 5. 31	第5277379号	
植物病害防除剤	関根崇行, 増田俊雄	H21. 7. 29	H26. 1. 17	第5455114号	

2) 新品種（種苗法による品種登録）

農林水産 植物の 種類	登録品種の名称	育成者	出願年月日	登録年月日	登録番号 (出願番号)	備考
いちご	もういっこ	鹿野弘, 庄子孝一, 高野岩雄, 大沼康, 本多信寛, 関根崇行	H17. 4. 1	H20. 3. 5	第16154号	
りんご	サワールージュ	菊地秀喜, 大沼康, 池田裕章, 大沼欣生, 鎌田賢治, 高嶋名世 瑠, 鶴飼真澄, 安江 恵美子, 菅原怜	H22. 3. 8	H23. 3. 15	第20602号	
ゆり	ルビーマジック	鈴木誠一, 佐々木厚	H21. 3. 17	H24. 2. 2	第21370号	

5 組織及び職員

1) 組織・機構 (平成30年4月1日現在)



2) 職員 (平成31年3月31日現在)

所 属		職 名	氏 名	所 属		職 名	氏 名			
部名	班・チーム名			部名	班・チーム名					
総務部		所長	鵜飼 尚美	園芸栽培部		部長	山村 真弓			
		副所長	伊澤 正行			総括研究員	佐々木 厚			
		副所長(技術担当)	齋藤 益郎		野菜	上席主任研究員	鹿野 弘			
	総務班	(兼)部長	伊澤 正行			副主任研究員	吉田 千恵			
		部副参事兼次長(総括)	及川 淳			研究員	高山 詩織			
		次長(班長)	小野寺 哲也		技師	尾形 和磨				
		主幹	佐藤 敏幸		技師	金子 壮				
		主幹	宮城 恵子		技師(農主)	今野 順行				
	管理班	主査(再)	布田 清		技師(試主)	中澤 陽子				
		主査(再)	二瓶 年信		花き	総括研究員(兼)	佐々木 厚			
		技師(機操)	今野 友紀			主任研究員	足立 陽子			
		次長(班長)	佐藤 司			技師	津田 花愛			
主査(再)	鈴木 清之	技師(農)	松浦 淳							
管理班	主事(事務補)	鈴木 優子	果樹	上席主任研究員	大沼 欣生					
	技師(再)	伊東 実		研究員	鎌田 賢治					
	技師(再)	間 隆是		技師	庄子 雅和					
	技師(再)	間 隆是		技師	高田 万里子					
企画調整部		部長	大内 信博	園芸環境部		部長	畑中 篤			
	企画調整	技術次長	門間 豊資		土壌環境	主任研究員	瀧 典明			
		技術主幹	高橋 真紀			研究員	中村 佳与			
		主任主査	野澤 典子			技師	永田 悦祈			
技師	北川 誉紘	技師(農主)	吉田 健							
情報経営部		部長	齋藤 牧人	虫害	主任研究員	関根 崇行				
	情報	総括研究員	伊藤 和子		技師	鈴木 香深				
		主任研究員	菅野 千秋		技師(農主)	駒形 泰之				
		研究員	本多めぐみ		技師(試)	高橋 るみ				
バイオテクノロジー開発部	経営	総括研究員(兼)	伊藤 和子	病害	主任研究員	大場 淳司				
		上席主任研究員	大森 裕俊		研究員	近藤 誠				
		主任研究員	小池 修		技師	木村 智志				
	作業技術	研究員	高橋 正明		園芸栽培部	園芸栽培部	主任研究員	鈴木 誠一		
研究員		鈴木 誠一	園芸環境部	園芸環境部			研究員	千葉 直樹		
技師		板橋 建					バイオテクノロジー開発部	バイオテクノロジー開発部	技師	大坂 正明
技師(試主)	大久保 哲子	園芸栽培部							園芸栽培部	技師(試主)
資源開発利用	研究員				澤里 昭寿	園芸栽培部				園芸栽培部
	技師		高橋 勇人	園芸環境部	園芸環境部					
	技師(農主)		伊藤 雅人				園芸栽培部	園芸栽培部		
品種管理(岩沼分庁舎)	上席主任研究員	小野寺 博稔	園芸栽培部						園芸栽培部	
	主任研究員	櫻井 晃治				園芸栽培部				園芸栽培部
	技師	今野 裕介		園芸栽培部	園芸栽培部					

3) 現員 (平成31年3月31日現在)

所 長	吏 員 (人)			単 労 (人)					合計 (人)	
	事務	技術	計	事務	運転	機械操作	農場	試験補助		計
所 長		1	1							1
副 所 長	1	1	2							2
総 務 部	8		8	1		1	2		4	12
企 画 調 整 部		5	5							5
情 報 経 営 部		7	7							7
ハ ^イ オ ^テ ク ^ノ ロ ^ジ -開 ^発 部		9	9				1	1	2	11
園 芸 栽 培 部		13	13				3	2	5	18
園 芸 環 境 部		10	10				1	1	2	12
計 (人)	9	46	55	1	0	1	7	4	13	68

6 収入及び支出

1) 収入決算（平成31年3月31日現在）

(千円)

	平成29年度	平成30年度	前年比較	備考
08 使用料及び手数料	919	918	△ 1	
01 使用料	919	918	△ 1	
10 財産収入	25,031	32,425	7,394	
01 財産運用収入	374	374	0	
02 財産売払収入	24,657	32,051	7,394	
02 物品売払収入	79	21	△ 58	
03 生産物売払収入	24,578	32,030	7,452	
14 諸収入	92,330	87,503	△ 4,827	
04 受託事業収入	90,227	85,066	△ 5,161	
06 雑入	2,103	2,437	334	
計	118,280	120,846	2,566	
(一般財源)	123,043	108,615	△ 14,428	
合 計	241,323	229,461	△ 11,862	

2) 支出決算（平成31年3月31日現在）

(千円)

	平成29年度	平成30年度	前年比較	備考
02 総務費	47	33	△ 14	
01 総務管理費	47	33	△ 14	
01 一般管理費	1		△ 1	
02 人事管理費	46	33	△ 13	
06 農林水産業費	224,855	222,269	△ 2,586	
01 農業費	222,397	220,292	△ 2,105	
01 農業総務費	181	409	228	
02 総合農政企画指導費	741	548	△ 193	
09 宮城米対策費	7,346	10,750	3,404	
10 農作物対策費	3,941	2,928	△ 1,013	
11 園芸特産振興費	7,966	3,450	△ 4,516	
12 農業改良普及費	910	1,473	563	
13 農業後継者育成費	6,226	6,201	△ 25	
14 農業試験研究費	195,086	194,533	△ 553	
02 畜産業費	2,458	1,977	△ 481	
02 畜産振興費	14		△ 14	
03 家畜保健衛生費	7		△ 7	
04 畜産試験研究費	2,437	1,977	△ 460	
07 商工費	183	196	13	
03 企業指導費	183	196	13	
03 工業技術指導費	183	196	13	
10 教育費	16,238	6,963	△ 9,275	
04 高等学校費	16,238	6,963	△ 9,275	
02 全日制高等学校管理費	16,238	6,963	△ 9,275	
合 計	241,323	229,461	△ 11,862	

3) 主要機械器具装置 (50万円以上)

平成30年度購入分

品名	規格・品質	金額(円)	供用場所	摘要
夜冷育苗システム	阿部鉄工(株) 200型縦出(適応作物:イチゴ)	2,786,400	園芸栽培部	
果樹用自動走行車両一式(JB02改荷台付自動走行車両)	ヤマハ発動機(株) 車両本体荷重:500kg,最大積載量:350kg,全長3.14×最大幅1.35×全高1.25,他一式	8,203,680	園芸栽培部	
携帯型分光放射計	英弘精機(株) MS-720+MS-720-AC-100 ACアダプタ+MS-720-H ハロゲン検定付き	1,371,600	園芸栽培部	
ICP発光分光分析装置	(株)パーキンエルマー ジャパン Avio500 CYCLON ICP-OES	5,940,000	園芸環境部	
マイクロウェーブ試料前処理システム(ICP発光分光分析装置)	(株)パーキンエルマー ジャパン Titan MPS 8	2,793,960	園芸環境部	
空撮用ドローン	Matrice600 Pro	1,059,480	園芸環境部	

7 職員の研修

1) 職場内研修

研修名	研修者名	研修内容	開催月日	場所
新任及び転入職員 の施設内研修	農業・園芸総合研究所職員 15名 農業大学校職員 2名	農業・園芸総合研究所及び農業大学校の施設, 会場, 研究概要	平成30年4月9日	農業・園芸総合研究所 農業大学校
所内研修	農業・園芸総合研究所職員 47名	研究倫理, 公的試験研究費の適正使用	平成30年5月16日	講堂
所内研修	農業・園芸総合研究所職員 43名	依頼研究員派遣研修報告(2名) 共同研究契約の進め方等	平成31年3月6日	講堂

8 図書の新蔵

分類	冊数	備考
定期刊行物(学会誌, 雑誌)	5,000	平成30年度 購入分177冊, 寄贈分147冊
単行本	2,957	
農水省, 独立行政法人関係	9,583	
都道府県関係	10,167	
宮城県関係	6,464	
その他(閲覧室等)	2,059	
計	36,230	

9 見学者等の受け入れ

1) 見学者

平成30年度の見学者は1,249人で, その内訳は次のとおりであった。

合計	見学者の内訳						県内	県外	国外
	農業者	農業指導者	大学・高校	小・中学校	県関係	その他			
1,249	790	114	215	0	31	99	694	545	10

月日	見学者名	見学内容	対応部・チーム
平成30年			
5月11日	岩沼市農政課新採	新しい技術等	企画調整部
5月31日	宮城大学ファームビジネス学科	復興状況と今後の課題	企画調整部
6月5日	花巻市矢沢地区中山間協議会	研究所の概要	作業技術チーム
6月18日	登米市浅草水土里会	環境保全型農業	資源開発利用チーム
6月25日	気仙沼市 大唐桑栽培愛好会	果樹の研究 食用桑の実	果樹チーム
7月3日	迫町消費者の会	果樹研究の概要	果樹チーム
7月9日	いない地区園芸生産組合	空豆の連作障害	野菜チーム
7月11日	田尻 下見の堀実行組合	資源開発の状況	野菜チーム
7月18日	北村山農業技術普及課	シャインマスカット栽培	果樹チーム
7月23日	花巻農協ブドウ生産部会研修	雨水を利用したシャインマスカット栽培	果樹チーム
7月23日	J A つがる弘前 船沢地区 S S 協議会	りんごジョイント栽培	果樹チーム
7月23日	江蘇省農業科学院イチゴ研究者	夏イチゴ	野菜チーム
7月25日	J A つがる弘前 呑百姓の会	りんごジョイント栽培	果樹チーム
7月27日	東大崎水稲採種組合	原種栽培	品種管理チーム
7月30日	J A つがる弘前 船沢青年部	りんごジョイント栽培	果樹チーム
7月31日	J A いわて平泉いちご生産部会	イチゴハウスの環境制御	野菜チーム
8月3日	J A いわて中央ぶどう部会	シャインマスカット栽培	果樹チーム
8月7日	相馬村農協 (弘前市付近)	りんごジョイント栽培	果樹チーム
8月7日	宮城大学ファームビジネス学科	りんごジョイント栽培	果樹チーム
8月16日	小牛田農林高校	露地野菜と西洋野菜	資源開発利用チーム
8月20日	北ひびき農協役員研修 (北海道)	トマト、パプリカ等先端技術	野菜チーム
8月27日	農法 柳田営農組合	露地野菜の先端技術	野菜チーム
8月28日	亙理名取果樹振興協議会	亙理名取りりんご栽培研修会	果樹チーム
8月28日	J A 古川西部支店	露地野菜の先端技術	野菜チーム
8月28日	富山県立中央農業高校	復興と園芸研究	野菜チーム
8月31日	岩沼法人会	ミニトマトポットレス栽培	資源開発利用チーム
8月31日	仙台農振部行政班視察	環境制御型ハウス他	野菜チーム
9月3日	J A 南三陸果樹生産部会	りんごジョイント栽培	果樹チーム
9月10日	加美町農村生活研究グループ連協	研究所の概要と野菜技術	野菜チーム
9月13日	福島県短期大学校野菜経営学科	農業の先端技術	栽培部
9月19日	J A みやぎ登米花き部会	育苗用のミスト装置について	花きチーム
9月21日	高知県須崎農業振興センター	次世代ハウス	野菜チーム
9月21日	日本製紙釧路工場	シャインマスカット栽培	果樹チーム
9月27日	宮城県農業資材商業会	肥料農薬等の研究	野菜チーム
10月5日	J A みやぎ亙理いちご部会山下支部視察研修会	イチゴハウスの環境制御	野菜チーム
10月17日	岩手中部土地改良区	露地野菜の先端技術	資源開発利用チーム
10月17日	宮城第一高校理数科	環境制御型ハウス他	野菜チーム
10月23日	J A いしのまきイトーヨーカドー直売部会	農薬の使用回数が少ない効果的防除方法	野菜チーム
10月26日	尚絅学院大学地域環境コース	イチゴの育種、果樹の育種	野菜チーム
10月29日	J A みやぎ亙理いちご部会吉田支部視察研修会	イチゴハウスの環境制御	野菜チーム
10月31日	平成30年度園芸協会果樹専門部会	果樹の生育状況等	果樹チーム
11月1日	登米・気仙沼土地改良区連協	登米での転作作物について	野菜チーム
11月2日	宮城県農業信用基金協会 (韓国の研修生)	イチゴ栽培	野菜チーム
11月5日	富山県広域普及指導センター	高軒高及びハウス利用ミニトマト	資源開発利用チーム
11月6日	群馬県富岡市農業委員会事務局	農業視察先端プロ社会実装	野菜チーム
11月6日	山形県 J A 園芸振興協議会	イチゴ栽培	野菜チーム
11月6日	J A 土浦千代田支店青年部	高軒高ハウス	野菜チーム
11月6日	J A 八戸いちご八戸支部	にこにこベリーについて	野菜チーム
11月7日	アルプス技研研修	農業の状況と研究概要	企画調整部
11月9日	名取市サポートセンター	花きの研究等	花きチーム
11月9日	柳津町農林業団体連絡協議会 (福島県)	野菜の先端技術	野菜チーム
11月12日	大潟村第六認定農業者協議会	野菜の先端技術	野菜チーム
11月14日	西会津町農業委員会事務局	耕谷アグリサービス及びシャインマスカット栽培	果樹チーム

月日	見学者名	見学内容	対応部・チーム
11月22日	J Aみやぎ登米寒じめ野菜部会	ちぢみほうれん草の品種試験	果樹チーム
11月27日	長野県果樹試験場担当者	りんごジョイント栽培	果樹チーム
11月28日	仙南地域企業振興連絡協議会	先端技術のイチゴ栽培	野菜チーム
11月28日	しらかわ農業未来塾（白河市）	野菜の先端技術	野菜チーム
11月28日	石巻 みやぎ農業未来塾	イチゴの最先端技術等	野菜チーム
12月4日	もがみ中央農協 萩野青果振興会	施設野菜花きの取組	野菜チーム
12月6日	J A北つくば明野青年部	露地野菜の先端技術病害虫対策	資源開発利用チーム
平成31年			
1月10日	J Aふくしま未来 いちご生産部会桑折支部	にこにこベリーについて	野菜チーム
1月22日	石巻市トマト生産組合	環境制御のトマト栽培	野菜チーム
1月30日	北海道立総合研究機構花き野菜技術センター	トマトの環境制御	野菜チーム
1月30日	岩手県岩泉町農業振興室	四季なり性いちご栽培	野菜チーム
2月5日	福島県農業総合センター作物園芸部	いちごの育種	野菜チーム
2月7日	古川農協いちご部会	にこにこベリーについて	野菜チーム
2月13日	神奈川県農業技術センター果樹花き研究課	りんごジョイント栽培	果樹チーム
2月14日	二戸市認定農業者振興会 葉たばこ部会	イチゴ栽培について	野菜チーム
2月18日	富山県農林水産総合技術センター園芸研究所果樹研究センター	りんごジョイント栽培	果樹チーム
2月18日	J Aみやぎ登米農協青年部迫町支部	露地野菜の先端技術	資源開発利用チーム
2月19日	佐賀県革新支援員 志波	野菜の先端技術	野菜チーム
2月20日	全国イチゴ主産県協議会	G R Aの先端プロ社会実装	野菜チーム
2月20日	一関市農業委員会事務局	震災復興と園芸の試験研究	企画調整部
2月27日	川越市4Hクラブ	野菜の先端技術	野菜チーム
2月27日	J A夢みなみ 鏡石イチゴ専門部会（須賀川市）	にこにこベリーについて	野菜チーム
3月14日	秋田県農業試験場 原種生産部	良食味品種の原原種生産	品種管理チーム

2) 研修等の受け入れ

受け入れ研修、職場体験学習、農業改良普及指導員研修等に対応した。

月 日	件 名	研 修 者	内 容
6月11日～15日 6月18日～22日 6月25日～29日 9月3日～7日 9月10日～14日 10月22日～26日	試験研究機関 派遣研修	登米・石巻農業改 良普及センター (野菜担当2名, 作物担当2名,計 4名)	・農産物のマーケティング手法及び経営指標作成の基礎 知識等(情報経営部) ・露地園芸における機械化一環体系の取組、病虫害の遺 伝子診断技術等(バイオテク部) ・イチゴの採苗技術・花芽分化確認、イチゴのクラウン 温度制御技術、冬期草勢管理技術等(園芸栽培部) ・I P M・主要病虫害の診断方法と防除技術対策、土壌 分析手法と診断施肥法防除、土壌診断・施肥技術等 (園芸環境部)
8月1日	普及活動基礎 研修(中期)	普及センター新規 採用職員及び転入 職員(計6名)	・試験研究機関と普及活動との連携について
8月27日～31日	インターンシ ップ	東北大学(1名) 宮城大学(1名) 法政大学(1名)	・企画調整部の業務概要 ・情報経営部の業務概要 ・バイオテクノロジー開発部の業務概要 ・園芸栽培部の業務概要 ・園芸環境部の業務概要
5月16日～17日 11月13日～15日	職場体験学習	岩沼市立岩沼北中 学校(4名) 仙台市立柳生中学 校(5名)	・農業・園芸総合研究所の仕事について
8月23日～24日 8月27日～29日 8月31日 9月3日～4日 9月6日～7日 9月10日～11日 9月13日～14日 9月18日～20日	吉林省農業研 修員	吉林省農業委員会 造園特産処 職員 (1名)	・企画調整部の業務概要 ・各研究部の試験研究概要 ・各研究部の技術実習
7月10日～3月15日 (内34日間)	農業関係試験 研究機関研修 員	仙台高等専門学校 (1名)	・農作業用ロボット開発について

10 生活環境保全林「高館いこいの森」

昭和58年開設以来多くの県民に、自然と親しむ憩いの場として、又は野鳥や植物の自然観察に利用されている。

- ・規 模 28ヘクタール
- ・主な施設 あずまや
- ・管理の実績 遊歩道等の維持管理を実施した。

Ⅱ 諸 会 議 ・ 行 事 等

1 宮城県試験研究機関評価委員会

年月日	会議名	摘要
平成30年6月12日	第1回農業関係試験研究内部評価委員会	・平成29年度完了課題の事後評価及び継続課題の中間評価について
平成30年7月6日	第1回農業関係試験研究機関評価部会	・平成29年度完了課題の事後評価及び継続課題の中間評価について
平成30年9月27日	第2回農業関係試験研究機関評価部会	・農業・園芸総合研究所の機関評価について
平成30年10月24日	第2回農業関係試験研究内部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度新規予定課題の事前評価について ・平成29年度終了課題の事後評価について ・平成30年度新規課題（受託、事業研究課題等）について ・平成31年度農業関係試験研究計画について
平成30年12月3日	第3回農業関係試験研究機関評価部会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度農業関係試験研究に対する要望課題への対応について ・平成31年度新規予定課題の事前評価について ・平成30年度新規課題（受託等）について ・平成31年度農業関係試験研究計画について

2 宮城県農業関係試験研究推進会議

年月日	会議名	摘要
平成30年4月27日	第1回農業関係試験研究推進会議幹事会（以下「幹事会」）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度農業関係試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・農業関係試験研究機関内部評価及び外部評価について ・平成31年度農業試験研究要望課題について ・農業関係試験研究機関知的財産権管理委員会について ・平成30年度農業関係試験研究計画（案）について ・普及に移す技術等原稿作成要領の改正について ・研究成果情報のホームページ等を通じた発信について ・農業関係試験研究機関の改革に係る推進について
平成30年5月15日	第1回農業関係試験研究推進会議（以下「推進会議」）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度農業関係試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・農業関係試験研究機関内部評価及び外部評価について ・平成31年度農業試験研究要望課題について 等
平成30年9月6日	第2回幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・平成31年度新規候補課題について ・平成30年度農業関係試験研究計画（修正案）について ・普及に移す技術作成要領等の改正について ・平成31年度農業関係試験研究計画（素案）について ・企画調整業務の見直し等について
平成30年9月10日	第2回推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・平成31年度新規候補課題について ・平成30年度農業関係試験研究計画（修正案）について 等
平成30年9月21日	第3回幹事会	・企画調整業務の見直しについて

年月日	会議名	摘 要
平成30年12月5日	第4回幹事会	・企画調整業務の見直し等について
平成31年2月14日	第5回幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・「普及に移す技術」第94号候補課題（案）について ・平成31年度農業関係試験研究計画（案）について ・平成31年度依頼研究員候補（案）について ・農業関係試験研究内部評価委員会の運用の見直し（案）について ・企画調整業務の見直し（案）等について
平成31年3月13日	第3回推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度試験研究推進スケジュール（案）及び普及広報計画（案）について ・「普及に移す技術」第94号候補課題（案）について ・平成31年度農業関係試験研究計画（案）について 等

3 農業・園芸総合研究所成績検討会等

年月日	会議名	摘 要
平成30年7月3日	平成29年度冬作試験研究成績検討会及び平成30年冬作試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 2課題 ・バイオテクノロジー開発部 設計検討 6課題 ・園芸栽培部 成績検討 5課題、設計検討 3課題 ・園芸環境部 成績検討 1課題、設計検討 3課題 計 成績検討 8課題、設計検討 12課題
平成30年12月17日～18日	平成30年度第1回試験研究成績検討会及び成果情報検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジー開発部 成績検討 7課題、成果情報 4課題 ・園芸栽培部 成績検討 17課題、成果情報 5課題 計 成績検討 24課題、成果情報 9課題
平成31年1月16日～17日	平成30年度第2回試験研究成績検討会及び普及に移す技術候補課題検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 成績検討 14課題、普及に移す技術 4課題 ・バイオテクノロジー開発部 成績検討 15課題、普及に移す技術 4課題 ・園芸栽培部 成績検討 31課題、普及に移す技術 3課題 ・園芸環境部 成績検討 24課題、普及に移す技術 6課題 計 成績検討 84課題、普及に移す技術 17課題
平成31年3月4日～6日	平成31年試験研究課題設計検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・情報経営部 設計検討 8課題 ・バイオテクノロジー開発部 設計検討 14課題 ・園芸栽培部 設計検討 45課題 ・園芸環境部 設計検討 28課題 計 設計検討 95課題

4 農業・園芸総合研究所試験研究推進会議

農業・園芸総合研究所における試験研究を効率的に推進するため、所長、副所長及び研究部長で構成する会議を開催した。

年月日	摘 要
平成30年4月5日	・「高度な栽培管理を可能とするイチゴの3次元形状計測技術の開発」（（公財）新技術開発財団受託事業）に係る成績検討について（情報経営部）

年月日	摘 要
4月17日	・「食料生産地域再生のための先端技術展開事業（社会実装促進事業）」への応募について（企画調整部）
5月8日	・平成29年度F S（フィージビリティ・スタディ）事業の成績検討について（関係部） ・平成30年度重点的研究課題について（企画調整部）
5月22日	・平成29年度F S（フィージビリティ・スタディ）事業研究提案書に係る検討について（関係部）
5月28日	・「避難指示解除地域および津波被災地域における土地利用型野菜の効率的な管理技術の実証研究」（H30～32, 受託(先端プロ福島県農業)）の設計検討について（園芸栽培部） ・平成30年度第1回農業関係試験研究内部評価委員会に係るプレゼン発表練習等について（3課題）（オープンラボ）
6月4日	・「宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発」（H26～30, 県単）の設計検討について h キク類の暗期中断による花芽分化抑制に効果的な波長の解明（園芸栽培部） ・「花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究」（H30～32, 受託(先端プロ課題)）の設計検討について（園芸栽培部）
6月18日～19日	・平成31年度農業関係試験研究要望課題について ①情報経営部 ②バイオテクノロジー開発部 ③園芸栽培部 ④園芸園芸環境部
7月17日	・園芸品種検討委員会専門部会に係る協議事項について（企画調整部）
7月24日	・代謝情報基盤による有用農業形質評価システムの開発（「有用農業形質バイオマーカーの開発」）への参画について（バイオテクノロジー開発部）
7月19日	・東北農業研究発表練習会について（企画調整部）
7月31日	・JST未来社会創造事業「振動を用いた減農薬の作物保護・栽培による農業サービス」への参画について（園芸環境部） ・積水化学助成事業「害虫の行動習性を活用した汎用性の高い振動防除装置の開発」への参画について（園芸環境部）
9月5日	・県単研究課題「宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発」に係る設計検討について（バイオテクノロジー開発部） ・平成31年度農業関係試験研究に対する要望課題とその対応及び平成31年度新規県単候補課題に係る実行計画について（企画調整部）
9月11日	・共同研究「カラーピーマン果実成分に対する群落受光量の影響調査」について（情報経営部）
9月18日	・「反射スペクトルのコントロールによる害虫抑制技術を用いた農業用フィルム及び資材の実用化の可能性」に関する研究に係る秘密保持契約について（園芸環境部）
10月9日	・平成30年度第2回農業関係試験研究内部評価委員会に係るプレゼン発表練習について（各研究部） ・平成31年度新規受託試験研究への参画について（園芸環境部） （1）農林水産省戦略的国際共同研究推進委託事業「天敵温存植物・間作を利用した土着天敵保護強化による露地野菜害虫防除技術の開発」（研究代表：中央農研） （2）科学研究費基盤研究（c）「リビングマルチを利用したアブラナ科野菜の新しい管理技術に関する研究」（研究代表：東北大学農学研究科） （3）科学研究費基盤研究（c）「振動を用いた害虫防除および作物栽培のための環境低負荷技術の開発」（研究代表：森林総研）
10月16日	・「園芸植物に付加価値を与えるウイルスの探索」（科研費）について（バイテク部） ・「カラーピーマンの着色メカニズムの解明」（科研費〔若手枠〕）について（園芸栽培部） ・「カラーピーマン栽培におけるフラッシュの平準化技術の検討」（松島財団 研究助成金）について（園芸栽培部） ・アグリビジネス創出フェア2018について（企画調整部）
10月23日	・「イチゴの着果数、収量を予測診断する『農作業診断コンシェルジュアプリケーション』の開発（仮）」（科研費）について（情報経営部）
10月31日	・「作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築」（受託研究課題）に係る成績検討について（3課題, 園芸栽培部及び情報経営部） ・「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力・多収・安定化技術の開発とその実証」（受託研究課題）に係る成績検討について（計8課題, バイオテクノロジー開発部, 園芸栽培部及び情報経営部） ・「高度病害抵抗性アブラナ科野菜品種の育成」（受託研究課題）に係る設計検討について（1課題, バイオテクノロジー開発部）
11月13日	・「健康の維持増進に有効な機能性成分高含有野菜の栽培実証と機能性表示食品の開発」（革新事業）に係る成績検討について（3課題, 園芸栽培部） ・「各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証」（革新事業）に係る成績検討について（2課題, 園芸栽培部）

年月日	摘 要
11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・「モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究」（革新事業）に係る成績検討について*（1課題，園芸環境部） ・「『知』の集積と活用場」による「東北農業のイノベーション技術創造プラットフォームへ」の参画について（企画調整部）
12月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・「『知』の集積と活用場」による「SDGsに貢献する新たな植物保護技術研究開発プラットフォーム」への参画について（園芸環境部）
12月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・「生果実（いちご）の東南アジア・北米等への輸出を促進するための輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM体系の開発ならびに現地実証」（革新事業）の成績検討について（園芸栽培部）
平成31年 1月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・「大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究（先端プロ〔福島県農業〕）」の成績検討について（バイオテク部2課題，園芸環境部2課題） ・「次世代型バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及」の成績検討について（園芸環境部2課題） ・「AIを活用した病害虫診断技術の開発」の成績検討について（園芸環境部1課題） ・「スマート農業加速化実証プロジェクト」への参画について（園芸栽培部1件）
1月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・「本県に適した特徴ある園芸作物のオリジナル品種育成（小ギク）」（非公開）の成績検討について（バイオテクノロジー開発部，単年度2課題，完了2課題） ・「国産花きの国際競争力強化のための技術開発－実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発－キクウイロイド性矮化病抵抗性品種の選抜」（非公開）の成績検討について（バイオテクノロジー開発部，単年度3課題）
1月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・「害虫と作物にダブル効果！振動を用いた害虫防除・栽培技術の開発と製品化」（イノベーション創出事業）への参画について（園芸環境部〔非公開〕）
2月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県育成品種検討委員会専門部会に係る協議事項について（企画部） ・「農薬の後作物残留を未然に防止する登録制度の提案」の成績検討について（2課題，園芸環境部）
3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成32年度要望課題について（企画調整部）

5 農業・園芸総合研究所連絡調整会議

農業・園芸総合研究所の運営に関する事項を協議するとともに，各部相互の総合調整を行い，業務の適正かつ能率的な執行を図るため，毎週1回開催した。

6 3機関連絡協議会

農業・園芸総合研究所，農業大学校，農業高等学校の連絡調整と重要事項を協議し，業務の適正かつ効率的な執行を図るため，年2回開催した。

7 各種委員会

1) 図書委員会

図書の購入計画，図書の移動等について協議した。

年月日	会議名	摘 要
平成30年4月26日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度図書委員の確認・図書委員長について ・平成30年度図書購入・各部負担金の確認について ・図書の購入について ・図書の整理について
平成30年10月23日	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度購入図書について
平成30年12月26日	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度に各部で購入する定期刊行物等について ・平成30年度購入図書について

2) DNA実験安全委員会

組換えDNA実験計画（新規及び変更）の適合性について協議した。

年月日	会議名	摘要
平成30年4月24日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・組換えDNA実験計画の適合性について（新規1件、変更2件） ・組換えDNA実験終了報告について（4件）

3) 農業関係試験研究機関知的財産権管理委員会

農業・園芸総合研究所，古川農業試験場，畜産試験場が保有する知的財産の取扱い等について協議した。

年月日	会議名	摘要
平成30年4月16日	第1回委員会 (書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特許権の維持継続について <ul style="list-style-type: none"> ・被除草体の殺草性成分に対する抵抗性の有無の簡易検定装置、その製造方法及びそれを使用した簡易検定方法
平成30年4月24日	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特許権の維持継続について <ul style="list-style-type: none"> ・水稲「たきたて」 (2) 品種の維持継続について <ul style="list-style-type: none"> ・水稲「金のいぶき」
平成30年6月27日	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特許権の維持継続について <ul style="list-style-type: none"> ・水稲「げんきまる」 (2) 品種の維持継続について <ul style="list-style-type: none"> ・きく「ティーレッド」 (3) 海外品種登録について <ul style="list-style-type: none"> ・いちご「にこにこベリー」
平成30年11月1日	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> (1) 特許の出願 <ul style="list-style-type: none"> ・振動による害虫防除および作物受粉の方法 (2) 品種の登録出願について <ul style="list-style-type: none"> ・水稲「まなむすめ」 ・水稲「蔵の華」 (3) 特許権の審査請求について <ul style="list-style-type: none"> ・作業位置指示装置

4) 一般公開検討委員会

農業・園芸総合研究所において取り組んでいる園芸作物（野菜、花、果樹）の新品種や栽培技術の開発、農作物の流通や農業経営に関する調査研究、また東日本大震災からの復興に向けた技術の開発等の内容を一般県民に広報し、体験をとおして、農業・園芸への理解を深めていただくために、毎年「農園研体験デー」を開催している。その内容等を検討するため、5月、6月、8月、9月の4回の委員会を実施し、平成30年10月6日（土）に「農園研体験デー 2018」を開催した。

5) 農場管理委員会

農業・園芸総合研究所（農業大学校・農業高等学校を含む）におけるほ場その他の農業用施設の有効利用と適切な保安全管理を図り、あわせて、農耕作業等の効率化を推進するため、4～11月、2月、3月の計10回実施した。

8 全国及び東北地域の検討会・研究会等への出席

年月日	会議名等	開催場所等
平成30年		
4月13日	第1回みやぎの園芸振興大賞表彰最終選考会、知事と部課長及び地方公所長合同会議	宮城県庁
4月17日	平成30年度 農薬等展示ほ設置に係わる設計会議	宮城県農業共済ビル
4月17日	平成30年度主要農作物(水稲・麦類・大豆)振興対策会議	宮城県庁
4月18日	平成30年度第1回農業革新支援センター会議	宮城県庁
4月24日	平成30年度宮城県園芸振興大会	仙台国際センター
4月25日	宮城県花と緑普及促進協議会第1回幹事・事務局員合同会議	宮城県庁
4月25日	主要農作物種子制度に関する説明会	古川農業試験場
5月9日	平成30年度第1回園芸関係事業等担当者会議	宮城県庁
5月9日	平成30年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業(社会実装)審査委員会	東京都内
5月10日	革新的技術開発・緊急展開事業体系別検討会(研究計画ヒアリング)	東京都内
5月11日	GAP普及推進に関する担当者会議	宮城県自治会館
5月15日	平成30年度第1回農業関係試験研究推進会議	宮城県庁
5月17日	JAみやぎ互理「にこにこベリー」育苗講習会	JAみやぎ互理選果場
5月21日	平成30年度第2回病害虫発生予察員会議	宮城県仙台合同庁舎
5月23日	JAみやぎ互理「いちご部会」栽培講習会	JAみやぎ互理選果場
5月25日	リンゴでのカブリダニ製剤登録に向けた試験計画検討会	盛岡市内
5月29日	「次世代型バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及」平成30年度第1回現地検討会・推進会議	大分県三重町内
5月29日	宮城県園芸作物ブランド化推進協議会総会、宮城県園芸協会通常総会	宮城県JAビル
5月31日	経営体プロ「各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証」	弘前大学
6月4日	人工知能未来農業創造プロジェクトのうち「栽培労務管理OPF」第1回推進会議(設計検討会議)	中央農研センター
6月5日	GlobalG.A.P. グループ認証セミナー	東京都内
6月5日	「健康の維持増進に有用な機能性成分高含有野菜の栽培実証と機能性表示食品の開発」平成30年度現地検討会及び設計検討会	兵庫県 兵庫ネクストファーム
6月5日	平成30年度第3回病害虫発生予察員会議	宮城県仙台合同庁舎
6月5日	「宮城県稲作指導指針」作成委員会	宮城県自治会館
6月5日	6次産業化支援担当者会議及び研修会	宮城県庁
6月6日	セミナー『食品産業の課題とその対応』(産学官連携協議会主催)	東京都内
6月8日	平成30年度経済商工観光部・農林水産部基礎研修	宮城県庁
6月12日	平成30年度第1回農業関係試験研究内部評価委員会	宮城県自治会館
6月13日	イノベーション強化推進事業「短時間変温管理法に基づく主要花き類の周年安定生産技術の開発」カーネーション担当部門別会議	東京都内
6月17日	「ルビーマジックPRキャンペーン」	宮城県庁
6月19日	みやぎの農業働き方改革に向けた農業現場改善セミナー	宮城県庁
6月19日	農業現場改善研修会・セミナー	宮城県庁
6月20日	予察員特別研修(6/20～8/31)	中央農業研究センター
6月20日	委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発」のうち、「国産花きの国際競争力強化のための技術開発」の研究計画設計推進会議への参加	奈良県櫻井市内
6月20日	平成30年度第4回病害虫発生予察員会議	宮城県仙台合同庁舎
6月20日	経営体(大規模施設園芸発展スキーム)コンソ H30第1回推進会議(設計会議)	中央農研センター
6月21日	平成30年度全国農業関係式園研究場所長会通常総会・研究功労者表彰式	宮城県庁
6月21日	宮城の稲作指導指針(基本編)執筆担当者会議	宮城県自治会館
6月27日	メッシュ農業気象データ利用講習会	美里町内
6月27日	平成30年度第1回宮城県試験研究機関場所長会	宮城県庁
6月28日	平成30年度産良質米づくり研修会	古川農業試験場
7月3日	平成30年度普及指導員調査研究検討会	宮城県自治会館

年月日	会議名等	開催場所等
7月3日	所内冬作検討会	農業・園芸総合研究所
7月4日	平成30年度東北農業試験研究推進会議 生産環境推進部会 土壌肥料研究会（夏期）	青森市内
7月5日	東北農試果樹部会・寒冷地果樹研究会合同現地研究会及び経営体プロ「各地域に適したリンゴ早期成圃化技術の開発と経営体における実証」弘前実証圃見学会	弘前大学
7月5日	農薬適正使用研修会	古川農業試験場
7月5日	平成30年度水稲生育診断会議	宮城県庁
7月6日	平成30年度第1回農業関係試験研究機関評価部会	宮城県自治会館
7月9日	農林水産省委託プロジェクト研究「人工知能未来農業創造プロジェクト」 「AIを活用した病害虫診断技術の開発」 中課題2（イチゴ）平成30年度中間検討会	東京都内
7月9日	「花きの計画生産・出荷管理システムの実証研究」に取り組む「地域再生（花き生産計画）コンソーシアム」試験設計検討会議	福島県郡山市内
7月10日	新潟県加茂市商工会主催 アスパラガス研修会	新潟県加茂市内
7月11日	スマートアグリ・ソリューション2018	東京都内
7月11日	H30農産加工基礎研修「農産加工者の衛生管理」	宮城県庁
7月11日	東北大学PICS並びに宮城県農林水産部連携事業（PICSみやぎ）研究計画検討会	東北大学内
7月12日	経営体プロ「各地域に適したリンゴ早期成圃化技術の開発と経営体における実証」平成30年度設計検討会および現地検討会	長野県長野市内
7月12日	平成30年度「鉢物・花壇用苗物類の生産及び安定供給技術の実証」に係る検討会議（主催：宮城県花と緑普及促進協議会）	宮城県庁
7月13日	環境研究総合推進費「農薬の後作物残留を未然に防止する登録制度の提案」研究打ち合わせ会議	東京都内
7月13日	施設園芸・植物工場展2018（GPEC）見学会	東京都内
7月13日	農業関係試験研究機関改革打合せ会議	宮城県庁
7月17日	「大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究」試験設計検討会	福島県郡山市内
7月18日	平成30年度宮城県農薬危害防止運動研修会	古川農業試験場
7月19日	平成30年度東北地域農業関係試験研究場所長会議	秋田市内
7月19日	平成30年度東北六県・新潟県主要農作物原種・原原種生産に係る情報交換会	弘前大学
7月23日	みやぎの企業的園芸等整備事業審査会	宮城県庁
7月24日	平成30年度東北農業試験研究推進会議 野菜花き推進部会 野菜研究会（夏期）	盛岡市内
7月24日	現場改善指導能力向上研修	宮城県仙台合同庁舎
7月25日	トマト地上部病害虫防除体系化グループ平成30年度中間検討会・現地検討会	宮城県庁
7月27日	平成30年度東北農業試験研究推進会議 農業経営研究会（夏期）	東北農業研究センター
7月28日	社会実装促進業務委託事業「小果樹（レッドカーランツ）を用いた新規加工品の市場性評価」に係る「すぐり研修会」	宮城県庁
7月31日	第61回東北農業試験研究発表会	福島市内
8月1日	「次世代型バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及」30年度 成果発表会・中間検討会	福岡県福岡市内
8月1日	平成30年度依頼研究員	中央農業研究センター
8月3日	米山イチゴ部会現地検討会	登米市内
8月3日	平成30年度第7回病害虫発生予察員会議	宮城県仙台合同庁舎
8月8日	改正JAS検討委員会	東京都内
8月9日	平成30年度いちご親株苗委託増殖ほ中間検討会	宮城県庁
8月21日	園芸学会東北支部平成30年度大会	福島市内
8月21日	キャベツ現地検討会	登米市内
8月23日	SIP平成30年度合同中間成績検討会	東京都内
8月23日	東北農業試験研究推進会議 病害虫研究会（夏期）	岩手県農業研究センター
8月23日	平成30年度第69回日本学校農業クラブ東北連盟大会	名取市内
8月24日	JGAP指導員基礎研修	宮城県庁
8月24日	JAみやぎ互理栽培講習会	JAみやぎ互理選果場
8月24日	東北大豆セミナーinふくしま	福島県南相馬市内

－ II 諸会議・行事等 －

年月日	会議名等	開催場所等
8月29日	四季成り性品種育種に関する現地調査	東北農業研究センター
8月30日	SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「次世代農林水産業創造技術」 「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発」	東京都内
8月30日	高度環境制御セミナー	せんだい農業園芸センター
9月5日	水稲新品種「だて正夢」・「金のいぶき」栽培塾	古川農業試験場
9月10日	農業環境工学関連5学会2018年合同大会	愛媛県松山市内
9月10日	平成30年度第2回農業関係試験研究推進会議	宮城県庁
9月11日	平成31年播種用麦類種子生産ほ設置配分会議	宮城県庁
9月13日	農生態バンカーシート現地検討会	秋田県果樹試験場
9月18日	平成31年度版「宮城県農作物病害虫・雑草防除指針」作成部会（作物部会及び園芸部会）及び病害虫対策（農業使用）打合せ	宮城県庁
9月19日	EBC研究会ワークショップ2018	東京大学内
9月19日	委託プロ「AIを活用した土壌病害診断技術の開発」平成30年度現地中間検討会	北海道江別市内
9月19日	施設園芸新技術セミナー・機材資材展in宮城	古川農業試験場
9月19日	主要農作物品種審査会幹事会	宮城県庁
9月20日	スマート農業加速化実証プロジェクト等に関する全国ブロック説明会	東北農業研究センター
9月21日	園芸学会平成30年度秋季大会	鹿児島県鹿児島市内
9月27日	平成30年度第2回宮城県試験研究機関評価委員会農業関係試験研究機関評価部会	農業・園芸総合研究所
9月28日	高度環境制御セミナー	せんだい農業園芸センター
10月1日	短期集合研修「農業生産における技術と経営の評価方法」	中央農業研究センター
10月3日	土壌炭素調査法検討会	北海道岩見沢市内
10月3日	土地利用型大規模経営体への花き生産導入要因解明に関する調査	秋田市内
10月4日	平成30年度園芸作物生産転換推進事業「だいこん現地検討会」	青森県東北町内
10月6日	一般公開「農園研体験デー」	農業・園芸総合研究所
10月12日	農業ワールド2018	千葉県千葉市内
10月17日	平成30年度農作物有害動物発生予察事業取りまとめ会議	宮城県仙台合同庁舎
10月17日	平成30年度いちご親株苗出荷事前検討会	岩沼市内
10月18日	蔵王地区梨部会秋季防除研修会	J Aみやぎ仙南蔵王支店
10月18日	アグリビジネス経営基盤強化整備事業事業審査会	宮城県庁
10月17日	東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会花き研究会 現地視察	宮城県内
10月18日	東北農業試験研究推進会議野菜花き推進部会花き研究会 検討会	宮城県内
10月18日	登米市米山イチゴ部会現地検討会	登米市内
10月18日	主要農作物品種審査会	宮城県庁
10月19日	平成30年度宮城県農林産物品評会審査用務	宮城県庁
10月19日	平成30年度宮城県花き品評会審査用務	宮城県庁
10月20日	みやぎまるごとフェスティバル2018	宮城県庁
10月21日	宮城県農林産物品評会表彰式	宮城県庁
10月23日	第33回報農会シンポジウム「植物保護ハイビジョン-2018」	東京都内
10月23日	知財戦略セミナー	宮城県庁
10月23日	北海道いちご調査検討会	宮城県庁
10月24日	平成30年度第2回農業関係試験研究内部評価委員会及び花き試験研究打合せ	宮城県庁
10月24日	平成30年第2回農業関係試験研究内部評価委員会	宮城県庁
10月25日	平成30年度J A全農肥料委託試験第1回成績検討会	神奈川県寒川町内
10月25日	平成30年度東北地域研究・普及連絡会議、東北農業試験研究推進会議（戦略会議）合同会議	仙台市内
11月1日	平成30年度新農業実用化試験（稲・野菜等）東北地域成績検討会	盛岡市内
11月1日	イチゴ栽培の高収益化のための低コストハウス開発と複合環境制御技術の最適化に関するセミナー	岡山県岡山市内
11月2日	平成30年度 次世代施設園芸生産者ネットワーク勉強会	栃木県下野市内

年月日	会議名等	開催場所等
11月6日	平成30年度花き研究シンポジウム「花きの需要拡大に資する研究開発の現状と社会実装に向けた連携態勢の構築」	中央農業研究センター
11月7日	石巻地域農業生産工程管理（GAP）導入推進研修2018	石巻市内宮城県庁
11月9日	栗原イチゴ部会現地検討会	栗原市内
11月12日	「AIを活用した病害虫診断技術の開発」中課題5, 6, 7平成30年度合同中間検討会	東京都内
11月12日	JAみやぎ互理栽培講習会	J Aみやぎ互理選果場
11月13日	青森県産業技術センター農林総合研究所シンポジウム「転炉スラグの活用”その魅力と威力～野菜類土壌病害対策として～」	弘前大学
11月14日	革新的技術開発・緊急展開事業大規模施設園芸コンソ平成30年度第2回推進会議	大分県九重町内
11月14日	現場改善指導研修	山元町内
11月14日	第3回総合資質向上研修	宮城県庁
11月14日	女性が働きやすい職場づくりセミナーin宮城	宮城県庁
11月15日	地域農業の明日を考えるシンポジウム2018	宮城県庁
11月16日	平成30年度農業等普及展示試験成績検討会	宮城県農業共済ビル
11月16日	せんだい農業園芸センター「複合経営研修」	せんだい農業園芸センター
11月18日	第28回天敵利用研究会・大阪大会	大阪府堺市内
11月18日	みやぎフラワーフェスティバル2018秋～暮らしに花を～	仙台市卸町団地内
11月20日	アグリビジネス創出フェア2018	東京ビックサイト
11月21日	平成30年度野菜育成系統評価試験成績・設計検討会議	三重県津市内
11月21日	健康の維持増進に有用な機能性成分高含有野菜の栽培実証と機能性表示食品の開発 試験成績中間検討会	東京都内
11月21日	第2回園芸関係事業担当者会議	宮城県自治会館
11月23日	平成30年度革新的技術開発・緊急展開事業（うち技術開発・成果普及等推進事業）「トウガラシ類研究」公開シンポジウム及び専門検討会、生育解析に関するゼミ	鹿児島県鹿児島市内
11月26日	経営体強化プロ「寒冷地の水田作経営収益向上のための春まきタマネギ等省力化・多収・安定化技術の開発とその実証」平成30年度中間成績検討会議への出席	東北農業研究センター
11月26日	経営体強化プロ：中間成績検討会「水稻育苗箱を利用した簡易養液栽培技術成績検討」	東北農業研究センター
11月27日	「イチゴ局所温度管理およびイチゴIPM防除体系の確立」成果伝達会	J Aみやぎ互理選果場
11月28日	平成30年度農林水産関係若手研究者研修	中央農業研究センター
11月28日	食料生産地域再生のための先端技術展開事業に係る計画説明会	東京都内
11月29日	平成30年度北海道・東北地区植物防疫協議会	仙台市内
11月29日	第4回東北鉢物生産組合品評会審査	仙台市内
11月29日	キャベツ長期無追肥育苗現地検討会	登米市内
11月29日	平成30年度北海道・東北地区植物防疫協議会 農薬分科会	仙台市内
11月30日	いわて農林水産物機能性活用研究会第2回機能性活用セミナー	盛岡市内
11月30日	稲作指導指針編集委員会	宮城県庁
12月3日	平成30年度第3回農業関係機関評価部会	宮城県庁
12月4日	第8回根こぶ病研究会	京都府京都市内
12月4日	平成30年度植物防疫に関する研修会	仙台市内
12月4日	小ギク現地試験用務	南三陸町内
12月4日	にこにこベリー実需者お披露目会	仙台市内
12月4日	平成30年度加工・業務用野菜育成研修会	美里町内
12月5日	平成30年度新農薬実用化試験（落葉果樹）成績検討会	東京都内
12月5日	平成30年度農業残留対策総合調査業務（後作物残留に係る調査）に係る第1回検討委員会	富山県新湊市内
12月5日	平成30年度第2回業際研究会交流会	林業技術総合センター
12月7日	家族農業版 働き方改革セミナーin岩手～パートナーシップ経営とワーク・ライフ・バランスを考えよう～	盛岡市内
12月10日	革新支援専門員システム化研究会（平成30年度全国農業システム化研究会）	福島県郡山市内
12月10日	水稻作柄検討会	宮城県庁

－ II 諸会議・行事等 －

年月日	会議名等	開催場所等
12月13日	農業法人セミナー（農業法人協会）	仙台市内
12月14日	平成30年度みやぎの野菜セミナー	宮城県J Aビル
12月20日	園芸担当者会議	宮城県庁
12月20日	水稲・大豆奨励品調査及び大豆生育調査成績検討会、水稲・大豆奨励品種候補選定会議	古川農業試験場
12月21日	農業大学プロジェクト発表会意見発表会	宮城県庁
12月21日	主要農作物種子対策検討委員会第3回幹事会	宮城県庁
12月25日	連続測定が可能な新規土壌センサーの活用に関する研究会	東北農業研究センター
12月25日	リンゴ黒星病による被害軽減対策会議	仙台市内
12月26日	平成30年度第2回宮城県試験研究機関場所長会	仙台市内
12月27日	食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」実績・計画検討会	東北農業研究センター
12月27日	平成30年度「鉢物・花壇用苗物類の生産及び安定供給技術の実証」に係る検討会議	宮城県庁
平成31年		
1月7日	平成30年度第10回農業革新支援センター会議	宮城県庁
1月11日	スマート農業加速化実証プロジェクト公募説明会	宮城県庁
1月11日	第一回 古川農業試験場成績検討会	古川農業試験場
1月15日	「次世代型バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及」平成30年度 第2回推進会議	中央農業研究センター
1月15日	野菜のおいしさ研究会（ケール）	東京都内
1月15日	平成30年度「花き計画生産・出荷管理システムの実証研究」試験成績及び設計検討会（先端プロ）	福島県本宮市内
1月16日	女性が働きやすい職場づくりセミナー	仙台市内
1月17日	「AIを活用した病害虫診断技術の開発」中課題2（イチゴ）平成30年度末検討会	東京都内
1月17日	主要農作物（大豆）種子対策検討委員会	宮城県庁
1月18日	ウェアラブル、ロボット開発活用展	東京ビックサイト
1月21日	先端プロ「大規模露地野菜の効率的栽培管理技術の実証研究」研究推進会議	福島県農業総合センター
1月22日	シンポジウム「スマート農業時代の植物防疫を考える」	東京都内
1月22日	機能性表示販売先進地事例調査	宮崎県内
1月22日	平成30年度東北農業試験研究推進会議果樹推進部会	盛岡市内
1月22日	労働力の確保に向けたセミナー	仙台市内
1月23日	パブリカ生産先進ほ場視察	北海道釧路市内
1月23日	「儲かる農業を実現する」農業ICTセミナー	せんだい農業園芸センター
1月23日	平成30年度産学官連携セミナー	仙台市内
1月24日	平成30年度東北農業試験研究推進会議生産環境推進部会病害虫研究会 病害分科会・虫害分科会	盛岡市内
1月24日	平成30年度東北農業試験研究推進会議 土壌肥料研究会	盛岡市内
1月24日	平成30年度東北農業試験研究推進会議（病害虫研究会）及び生産環境推進部会	盛岡市内
1月24日	西洋野菜研究会中間検討会	岩沼市内
1月25日	「AIを活用した病害虫診断技術の開発」平成30年度成績検討会および平成31年度試験設計検討会	東京都内
1月25日	地域戦略プロジェクト体系別検討会・評価委員	神奈川県川崎市
1月28日	「短時間変温管理法に基づく主要花き類の周年安定生産技術の開発」成績計画検討会	愛知県内
1月29日	平成30年度東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会加工流通研究会及び農業経営研究会	盛岡市内
1月29日	平成30年度東北農業試験研究推進会議作物生産推進部会 農業経営研究会	盛岡市内
1月29日	平成30年度東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 作業技術研究会	盛岡市内
1月29日	食材王国みやぎ推進パートナーシップ会議（国際センター）	仙台国際センター
1月29日	平成30年度 東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 稲品種検討会及び畑作物品種検討会	盛岡市内

年月日	会議名等	開催場所等
1月31日	平成30年度農薬環境挙動連絡試験成績検討会	東京都内
1月31日	平成30年度東北農業研究推進会議野菜花き推進部会	盛岡市内
1月31日	平成30年度食品リサイクル肥料の利用促進に向けた意見交換会	埼玉県内
2月1日	「国産花きの国際競争力強化のための技術開発」推進会議	中央農業研究センター
2月1日	平成30年度女性職員キャリア支援セミナー	宮城県庁
2月4日	平成30年度リンゴ・落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会および平成30年度落葉果樹研究会	中央農業研究センター
2月4日	露地野菜公開シンポジウム「露地野菜生産現場の現状整理と今後の展開」	東京都内
2月5日	平成30年度第2回宮城県試験研究機関評価委員会	宮城県庁
2月6日	第43回日本種苗協会宮城県支部通常総会	松島町内
2月6日	放射光施設に関する意見交換会	東北大学内
2月7日	委託プロ「AIを活用した土壌病害診断技術の開発」平成30年度推進会議	東京都内
2月7日	平成30年度寒冷地果樹研究会及び系統適応性検定試験成績検討会（寒冷地果樹）	盛岡市内
2月7日	6次産業化支援担当者研修会	宮城県庁
2月8日	平成30年度農薬残留対策総合調査（後作物残留に係る調査）第2回検討会	東京都内
2月8日	平成30年度PICS研究成果報告会・PICS市民公開講座	東北大学内
2月10日	みやぎフラワーフェスティバル2019	仙台市内
2月12日	「イノベーション創出強化研究推進事業」の成績検討会	神奈川県川崎市
2月12日	地域戦略プロ「生果実（いちご）の東南アジア・北米等を促進するための輸出相手国の残留農薬基準値に対応したIPM体系の開発ならびに現地実証」成績検討会	静岡県磐田市内
2月12日	「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」運営委員会・評価委員会	東京都内
2月12日	食料生産地域再生のための先端技術展開事業「社会実装促進業務委託事業（三県連携農業）」実績・計画検討会	東京都内
2月12日	水稲種子生産ほ設置配分会議及び大豆種子生産ほ設置配分会議	宮城県庁
2月13日	SIP個別技術9, 10平成30年度合同成績検討会	中央農業研究センター
2月13日	ASIA GAP指導員基礎研修	宮城県庁
2月13日	きゅうり収量アップ勉強会	福島市内
2月13日	主要農作物品種審査会	宮城県庁
2月14日	AIプロ機械化樹形に係るほ場視察及び情報交換会	岩手県農業研究センター
2月15日	平成30年度東北農業試験研究推進会議本会議	東北農業研究センター
2月18日	SIP「持続的な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発」トマト地上部病害虫防除体系化グループ平成30年度成績検討会・現地検討会	神奈川県藤沢市内
2月19日	機能性野菜開発コンソーシアム成績検討会	宮城県庁
2月20日	農薬残留対策総合調査に係る打合せ	中央農業研究センター
2月20日	北日本病害虫研究会評議会及び第72回北日本病害虫研究発表会	盛岡市内
2月20日	「AIを活用した栽培・労務管理の最適化技術の開発（うち栽培・労務管理の最適化を加速するオープンプラットフォームの整備）」平成30年度第2回推進会議	中央農業研究センター
2月20日	雪印種苗圃場視察及び地域産品展	東京ビックサイト
2月20日	AIプロ 平成30年度第2回推進会議	中央農業研究センター
2月20日	みやぎ食ひと交流サロンセミナー	仙台市内
2月21日	第72回北日本病害虫研究発表会	盛岡市内
2月22日	平成30年度宮城県農業普及・試験研究連携活動研究会	宮城県庁
2月25日	北海道加工用トマトセミナー	北海道札幌市内
2月26日	SIP平成30年度末全体検討会	東京都内
2月26日	平成30年度第1回推進会議（成績検討会・車両走行会）	神奈川県東海大学内
2月26日	SIP（戦略的イノベーション創出プログラム）「次世代農林水産創造技術」「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発」平成30年度年度末検討会	東京都内
2月26日	フード・フォーラム・つくば「フードファンクション分科会」講演	中央農業研究センター
2月27日	キネクト課題「3次元形状計測センサを活用する施設果菜類の草勢制御」平成30年度成績検討会	中央農業研究センター

－ II 諸会議・行事等 －

年月日	会議名等	開催場所等
3月5日	平成30年度総合資質向上早期対策研修	宮城県庁
3月6日	環境省 環境研究総合推進費「農薬の後作物残留を未然に防止する登録制度の提案」アドバイザーリーボード会議	中央農業研究センター
3月7日	FOODEX JAPAN 2019, 高度先端型技術実装促進事業シンポジウム	千葉県千葉市内
3月7日	「にこにこベリー」市場調査	北海道札幌市内
3月7日	宮城県麦大豆研修会及び古川農業試験場成果報告会	古川農業試験場
3月8日	機能性表示販売結果報告	登米市内
3月8日	I Tを活用したトマト生産者間ネットワーク勉強会	宮城県庁
3月11日	簡易養液栽培成績設計検討会	東北農業研究センター
3月11日	平成30年度成績設計検討会	東北農業研究センター
3月11日	「春まきタマネギ」成績設計検討会議	東北農業研究センター
3月11日	経営体強化プロ 平成30年度成績設計検討会議	東北農業研究センター
3月12日	みやぎの働き方改革に向けた農業現場改善セミナー	宮城県庁
3月12日	平成31年全農イチゴ部会中間検討会	仙台市卸町団地内
3月13日	第36回土・水研究会	中央農業研究センター
3月13日	平成30年度第3回農業関係試験研究推進会議	宮城県庁
3月14日	平成30年度革新工学センター研究報告会・農業機械技術クラスター総会・農業機械開発改良試験研究打合せ会議	埼玉県さいたま市内
3月14日	イノベーション創出強化研究推進事業平成30年度第一回成績検討会	兵庫県内
3月15日	第2回東北地域の水田地帯における新たな野菜産地育成推進セミナー	宮城県庁
3月15日	平成30年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール表彰式及び平成30年度未来につながる持続可能な農業推進シンポジウム	東京都内
3月15日	園芸特産振興会議、第2回みやぎ園芸振興対象最終選考会	宮城県自治会館
3月15日	野菜産地育成推進セミナー	仙台市内
3月17日	西洋野菜「ルバーブ」栽培講習会	七ヶ浜町内
3月18日	平成31年度日本植物病理学会大会	中央農業研究センター
3月18日	「にこにこベリー」県担当機関検討会	宮城県庁
3月19日	公益財団法人園芸振興松島財団 平成30年度園芸振興助成贈呈式	東京都内
3月19日	みやぎスマート農業推進セミナー	古川農業試験場
3月21日	第29回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	東京都内
3月21日	日本農作業学会2019年度春季大会	東京都内
3月23日	園芸学会平成31年度春季大会	神奈川県川崎市内
3月24日	第63回日本応用動物昆虫学会	中央農業研究センター

Ⅲ 研究成果の普及広報

1 普及に移す技術（第94号）の提案

試験研究成果の中から普及に移すことが適当と見込まれる優れた技術について、「農業分野における普及に移す技術等取扱要領」に基づき、積極的に奨励しようとする新しい技術及び品種・種畜を「普及技術」、普及、行政及び研究推進上参考となるものを「参考資料」とし、あわせて「普及情報」（新規農業資材の使用法や特性、新品種の特性等、適宜情報提供を行うもの）を震災復興関連技術・通常技術として、以下のとおり取りまとめ農林水産部長に提出した。

情報区分	分類名	技 術 名	主な担当 場所名	主な担当部名	主な担当 チーム・班	
普及技術	1	水稲	水稲品種「だて正夢」の栽培法	古川農業 試験場	水田利用部	稲作班
普及技術	2	野菜	タマネギ「晩秋まき栽培」による6～7月 連続収穫	農業・園芸 総合研究所	バイオテクノ ロジー 開発部	資源開発利用 チーム
普及技術	3	野菜	ルテイン含有量が安定して多いハウレン ソウを生産する技術	農業・園芸 総合研究所	園芸栽培部	野菜チーム
普及技術	4	土壌肥料	水田土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法 とデジタル画像解析を組み合わせた推定法	古川農業 試験場	土壌肥料部	土壌肥料班
普及技術	5	病虫害	大麦リビングマルチを利用したキャベツ のIPM体系（追補）	農業・園芸 総合研究所	バイオテクノ ロジー 開発部	遺伝子工学 チーム
普及技術	6	経営	6次産業化の導入に向けたチェックリス ト	農業・園芸 総合研究所	情報経営部	情報チーム
普及技術	7	家畜	新しい基幹種雄牛「茂福久(しげふくひ さ)」「平勝美(宮城)(ひらかつみ(みや ぎ))」「臯月彰(さつきしょう)」	畜産試験場	酪農肉牛部	肉牛チーム
普及技術	8	草地飼料	飼料用トウモロコシ奨励品種「SH4812」	畜産試験場	草地飼料部	草地飼料 チーム
普及技術	9	草地飼料	飼料用トウモロコシ奨励品種「Zコーン 125」	畜産試験場	草地飼料部	草地飼料 チーム
参考資料	1	野菜	ズッキーニ春作の安定生産技術	農業・園芸 総合研究所	バイオテクノ ロジー 開発部	資源開発利用 チーム
参考資料	2	果樹	1-MCP処理によるリンゴ「サワルー ジュ」の鮮度保持	農業・園芸 総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
参考資料	3	花き	露地電照栽培による需要期安定出荷が可 能な夏秋小ギク品種	農業・園芸 総合研究所	園芸栽培部	花きチーム
参考資料	4	土壌肥料	畑土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法	農業・園芸 総合研究所	園芸環境部	土壌環境 チーム
参考資料	5	病虫害	水稲の高密度播種苗における初期害虫と 初期いもち病防除法の比較	古川農業 試験場	作物保護部	病害制御班・ 虫害制御班
参考資料	6	病虫害	水稲のイネドロオイムシに対する殺虫成 分チアメトキサムの薬剤感受性低下	古川農業 試験場	作物保護部	虫害制御班
参考資料	7	病虫害	アカスジカスミカメの多発条件下におけ る殺虫剤による茎葉散布処理の効果（追 補）	古川農業 試験場	作物保護部	虫害制御班
参考資料	8	病虫害	種子処理剤及び畝立播種を用いた大豆の 土壌伝染性病害の防除	古川農業 試験場	作物保護部	病害制御班
参考資料	9	病虫害	ダイズほ場におけるフタスジヒメハムシ の発生動態と被害予測	古川農業 試験場	作物保護部	虫害制御班
参考資料	10	病虫害	ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の発 生消長	古川農業 試験場	作物保護部	虫害制御班

情報区分	分類名	技 術 名	主な担当 場所名	主な担当部名	主な担当 チーム・班	
参考資料	12	病害虫	ろ紙粉末を利用した植物ウイルス由来二本鎖RNAの検出	農業・園芸総合研究所	バイオテクノロジー開発部	遺伝子工学チーム
参考資料	13	病害虫	落葉処理によるナシ黒星病被害軽減効果	農業・園芸総合研究所	園芸環境部	病害チーム
参考資料	14	病害虫	トマトうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果	農業・園芸総合研究所	園芸環境部	病害チーム
参考資料	15	病害虫	イチゴ品種「にこにこベリー」の各種病害に対する耐病性比較	農業・園芸総合研究所	園芸環境部	病害チーム
参考資料	16	病害虫	促成イチゴにおけるUV-B電球形蛍光灯と反射資材の併用によるハダニ類抑制効果	農業・園芸総合研究所	園芸環境部	虫害チーム
参考資料	17	病害虫	リンゴのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果	農業・園芸総合研究所	園芸環境部	虫害チーム
参考資料	18	経営	県内大規模施設園芸経営体における労務・雇用管理の現状	農業・園芸総合研究所	情報経営部	情報チーム
参考資料	19	経営	第三者認証GAPにおける団体・グループ認証の体制とメリット	農業・園芸総合研究所	情報経営部	情報チーム
参考資料	20	経営	IPM技術として天敵利用が地域的に進む先進地事例	農業・園芸総合研究所	情報経営部	経営チーム
参考資料	21	家畜	哺乳子豚への代用乳給与技術	畜産試験場	種豚家さん部	養豚家さんチーム
普及情報	1	水稲	べんがらモリブデンを用いた水稲直播栽培における水稲種子処理剤の影響	古川農業試験場	水田利用部	稲作班
普及情報	2	畑・特用作物	大豆作における茎葉処理剤「フルチアセットメチル乳剤（商品名：アタックショット乳剤）」の奨励品種への影響	古川農業試験場	水田利用部	水田輪作班
普及情報	3	畑・特用作物	大豆作における茎葉処理剤「フルチアセットメチル乳剤（商品名：アタックショット乳剤）」の雑草種別除草効果	古川農業試験場	水田利用部	水田輪作班
普及情報	4	果樹	ブルーベリーの有望品種	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
普及情報	5	果樹	有望なブドウ品種の果実特性	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
普及情報	6	果樹	有望なリンゴ早生品種の果実特性	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
普及情報	7	果樹	有望な生食用イチジク品種の栽培特性	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
普及情報	8	果樹	ニホンナシ新品種「なるみ」の果実特性	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム
普及情報	9	果樹	モモ黄肉品種「つきあかり」の果実特性	農業・園芸総合研究所	園芸栽培部	果樹チーム

情報区分	分類名	技 術 名	主な担当 場所名	主な担当部名	主な担当 チーム・班
普及情報	10	土壌肥料	水稻栽培におけるリン酸とカリを減肥した基肥一発型肥料（商品名：みやぎ米パワフル一発24）の施用効果	古川農業試験場	土壌肥料部 土壌肥料班
普及情報	11	病虫害	ダイズのマメシクイガに対するフルキサメタミド乳剤およびクロラントラニリプロール水和剤の防除効果	古川農業試験場	作物保護部 虫害制御班
普及情報	12	病虫害	ダイズのウコンノメイガに対するクロラントラニリプロール水和剤の防除効果	古川農業試験場	作物保護部 虫害制御班
普及情報	13	病虫害	ダイズのオオタバコガに対する各種薬剤の防除効果	古川農業試験場	作物保護部 虫害制御班
普及情報	14	病虫害	カキ炭疽病の枝病斑から飛散する分生胞子の飛散消長	農業・園芸総合研究所	園芸環境部 病害チーム
普及情報	15	病虫害	ハダニ類の天敵である土着カブリダニの県内果樹園地での生息状況	農業・園芸総合研究所	園芸環境部 虫害チーム
普及情報	16	病虫害	促成イチゴで発生するハダニ類の土着天敵	農業・園芸総合研究所	園芸環境部 虫害チーム
普及情報	17	病虫害	フロメトキン水和剤のミカンキイロアザミウマに対する防除効果	農業・園芸総合研究所	園芸環境部 虫害チーム
普及技術 9 技術、参考資料 2 1 技術、普及情報 1 7 技術 合計 4 7 技術					

2 試験研究成果報告会等

最近の農業情勢の変化を重視し、かつ、本県農政の基本方針・重点施策を踏まえて、平成25年度における農業試験研究成果の速やかな活用を促進するため、各研修会において試験研究成果を報告した。

また、試験研究の内容を広く県民に理解してもらうため、施設を公開し、試験研究で開発した新しい技術や研究内容についての情報を発信することを目的に、体験デーを開催した。

1) 試験研究主催研修

中核的農業者や農業生産組織リーダー、農業指導者を対象に次のとおり専門研修を実施した。

開催日	研修名	受講者数	場 所
平成30年6月14日	「春タマネギ等省力化・多収・安定化技術」 現地研修会	62人	農業・園芸総合研究所及び 大河原町現地ほ場
平成30年7月20日	イチゴ担当者向けセミナー	31人	農業・園芸総合研究所
平成30年7月28日	小果樹（レッドカーランツ）を用いた新規加工品の市場性評価に係るすぐり研修会（社会実装促進事業関連）	18名	仙台市
平成30年9月4日	「水稻育苗ハウスの有効利用技術」現地研修会（社会実装促進事業関連）	42人	株式会社パスカファーム 立沼（東松島市） 農業・園芸総合研究所
平成30年10月3日	プラウ耕・グレーンドリル播種乾田直播、収量計測コンバインと可変施肥講習会（社会実装促進事業関連）	44人	名取市（有）耕谷アグリサービス
平成30年10月12日	ブドウ「シャインマスカット」現地研修会（社会実装促進事業関連）	69人	亘理町
平成30年11月6日	野菜生産振興研修会～キャベツ等の安定生産と販売に向けて～	89人	岩沼市

平成30年11月6日	野菜生産振興研修会～キャベツ等の安定生産と販売に向けて～	89人	岩沼市
平成30年11月14日	乳苗育苗, スタブルカルチ, GNSSガイダンス講習会 (社会実装促進事業関連)	63人	名取市 (有) 耕谷アグリサービス
平成30年11月27日	「イチゴ局所温度管理及びイチゴIPM防除体系の確立」成果伝達会 (社会実装促進事業関連)	100人	農業・園芸総合研究所
平成31年2月6日	イチゴ担当者向けセミナー	31人	農業・園芸総合研究所
平成31年2月22日	宮城県農業普及・試験研究連携活動研究会	144人	宮城県庁
計 14回		1,412人	

2) 宮城県農業普及・試験研究連携活動研究会 (新技術移転研修会等)

普及指導員に対し、下記のとおり「宮城県農業普及・試験研究連携活動研究会」の中で、「試験研究新技術移転研修会」を開催した。

- (1) 開催日時・場所 平成31年2月22日 (金) 宮城県庁講堂
 - (2) 出席者数 144名
 - (3) 内容等 「テーマ：大規模経営体等への支援について」
各試験研究機関から話題提供し、普及指導員等の意見交換を行った。
- [農業・園芸総合研究所]
 - 園芸栽培部 鹿野弘 上席主任研究員
 - ・大規模園芸経営体における環境制御技術について
 - [古川農業試験場]
 - 水田利用部 吉田修一 総括研究員
 - ・これからの土地利用型水田農業について
 - [畜産試験場]
 - 酪農肉牛部 熊谷弘明 上席主任研究員
 - ・畜産におけるスマート農業について

3) 試験研究一般公開

開催日	内 容	出席者数	場 所
平成30年10月6日	みやぎの試験研究一般公開 農園研体験デー	60組 207人	農業・園芸総合研究所

3 成果情報等提出課題

東北農業試験研究推進会議で検討され、研究成果としてオリジナリティを有し普及・行政・試験研究から有用性が高く評価される情報や東北地域に広く適用可能な情報と認められた成果については、「東北農業研究成果情報」に採用される。

平成30年度 「東北農業研究成果情報」採用課題

- [生産環境]
 - ・アダプター付加によるt-RFLP法の開発と検出可能な機器類の拡大
 - ・キュウリにおけるCMV-WMV混合弱毒株接種によるモザイク病の抑制
 - ・キャベツ秋冬作におけるリビングマルチと微生物製剤の併用による害虫抑制効果
- [野菜花き]
 - ・イチゴ四季成り性品種育種過程におけるDNAマーカーの活用
 - ・パプリカにおける受光量と物質生産の関係を利用した生育シミュレーション
 - ・札幌市と仙台市でのイチゴの消費動向及び新品種「ここにこベリー」の評価
 - ・簡易養液栽培槽を用いた四季成り性イチゴ夏秋どり栽培での反射資材展張による増収技術
 - ・宮城県の夏秋期における露地小ギクの電照栽培
- [果樹]
 - ・リンゴ側枝下垂型ジョイント樹形用の育苗方法の開発

4 研究報告・学会誌等発表

試験研究によって得られた新しい知見については、「東北農業研究」等に論文等として発表した。

番号	発表課題名	研究者名	発表誌・巻・号・年月
1	宮城県におけるキュウリ地上部病害に対する各技術を組み合わせた防除の検証	近藤誠	北日本病害虫研究会報 第69号 (報文)
2	光反射シートによるタマネギのネギアザミウマ密度抑制効果	関根崇行・猪苗代翔太・鈴木香深・山澤富雄・藤田勇	北日本病害虫研究会報 第69号 (報文)
3	宮城県における園芸作物圃場から採取したアザミウマ類3種に対する各種薬剤の殺虫効果	猪苗代翔太・関根崇行・板橋建	北日本病害虫研究会報 第69号 (報文)
4	転炉スラグによるハウレンソウ萎凋病の被害軽減と土壌ECとの関係	大場淳司・狐塚慶子・菊地友佳里・関拓真	北日本病害虫研究会報 第69号 (講演要旨)
5	宮城県のキュウリ主要作型におけるキュウリモザイクウイルス・スイカモザイクウイルス弱毒株接種苗の実用性	瀬尾直美・梁宝成・板橋建・大坂正明・山村真弓・猪苗代翔太・高橋勇人・澤里昭寿・木村重光・鈴木誠一	北日本病害虫研究会報 第69号 (講演要旨)
6	宮城県における近年のリンゴ斑点落葉病の発生と気象条件の関係	木村智志・大場淳司・近藤誠	北日本病害虫研究会報 第69号 (講演要旨)
7	四季成りイチゴ栽培におけるアカメガシワクダアザミウマの利用技術の検討	鈴木香深・関根崇行・大朝真喜子	北日本病害虫研究会報 第69号 (講演要旨)
8	第三者認証GAPによる効果と課題	本多めぐみ	東北農業研究 第71号
9	パプリカにおける日射量に基づく着果数および収量予測方法の検討	金子壮・高橋正明・相澤正樹・菅野圭一	東北農業研究 第71号
10	宮城県における夏秋ギク型小ギクの開花調節技術	津田花愛・佐々木厚・山口義昭・足立陽子	東北農業研究 第71号
11	小ギク矮化ウイロイド抵抗性品種の探索と実用性評価	大坂正明・板橋建・千葉直樹・瀬尾直美・津田花愛・山口義昭・足立陽子・佐々木厚・鈴木誠一・松下陽介	東北農業研究 第71号
12	光反射シート利用によるブドウ‘シャインマスカット’増収技術	庄子雅和・柴田昌人	東北農業研究 第71号
13	加工・業務用野菜の生産販売状況と定着条件	伊藤和子・菅野千秋・小笠原聡美	東北農業研究 第71号
14	カラーピーマン果実の着色促進に関する研究	吉田千恵	宮城県農業・園芸研究所研究報告 第87号
15	津波被災復旧畑土壌への各種有機質資材添加による土壌物理性改良効果	瀧典明・吉田千恵	日本土壌肥料学会2018年度神奈川大会, ポスター発表, 講演要旨集第64集
16	電動作業台車による加工用トマトかがみ収穫の作業負担軽減	高橋正明・小池修	農業環境工学関連学会2018年合同大会 (口頭発表)
17	遮光条件が初夏どりハウレンソウのルテイン含有量に及ぼす影響	尾形和磨・鹿野弘・山村真弓	平成30年度園芸学会秋季大会 (ポスター発表)
18	宮城県のタマネギ秋まき栽培と春まき栽培を組み合わせた6～7月連続収穫	澤里昭寿・高橋勇人・山村真弓	平成30年度園芸学会秋季大会表 (ポスター発表)
19	3次元形状計測センサを用いたカラーピーマンの生育解析	高橋正明・小池修・吉田千恵・岩崎泰永	平成30年度園芸学会秋季大会 (ポスター発表)
20	培養液濃度および摘果処理が一季成り性イチゴ‘ここにこベリー’の収量と果実糖度に及ぼす影響	高山詩織・今野誠・鹿野弘	平成30年度園芸学会秋季大会 (ポスター発表)
21	寒冷地における低温期のEOD-heating処理を用いた変夜温管理がスプレーカーネーションの開花, 収量および切り花品質に及ぼす影響	佐々木厚・山口義昭・足立陽子・津田花愛・山村真弓・道園美弦	平成30年度園芸学会秋季大会 (ポスター発表)
22	消費者を対象にしたイチゴの消費動向および宮城県オリジナル新品種‘ここにこベリー’に関する試食調査	高山詩織・鹿野弘・尾形和磨	園芸学会東北支部平成30年度大会研究発表要旨

23	寒冷地のスプレーギク栽培に適した暗期中断用各種光源の利用可能性に関する研究	佐々木厚	園芸学会東北支部平成30年度大会 平成30年度園芸学会東北支部賞 受賞者業績要旨
24	イチゴ炭疽病に対する次亜塩素酸水の防除効果	大場淳司・三浦慎一・中村悌一橋本好弘	平成30年度日本植物病理学会東北部会（口頭発表）
25	ニホンナシ‘甘太’におけるスポンジ状果の発生要因と低温貯蔵による変化	高田万里子・阪本大輔・羽山裕子・三谷宣仁・伊東明子・山根崇嘉・杉山洋行・草場新之助	園芸学研究第18巻別冊1：園芸学会平成31年度春季大会研究発表（ポスター発表）
26	2種アブラバチにおける植物およびアブラムシへの寄主選好性について	鈴木香深・光永貴之・長坂幸吉	第63回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨
27	リビングマルチを活用した「土着」微生物の有用管理技術	大坂正明・中村茂雄・板坂建・千葉直樹・関根崇行	第63回日本応用動物昆虫学会大会（ポスター発表）
28	宮城県内リンゴ園から採取したナミハダニに対する殺ダニ剤の効果	関根崇行・伊藤博祐・柴田昌人	第63回日本応用動物昆虫学会大会（ポスター発表）
29	落葉処理によるナシ黒星病の被害軽減効果	大場淳司・近藤誠・木村智志	平成31年度日本植物病理学会（口頭発表）
30	排水不良復旧農地でのネギ栽培における肥効調節型肥料の局所施肥効果	瀧典明・吉田千恵	園芸学研究第18巻別冊1：園芸学会平成31年度春季大会研究発表
31	キク矮化ウイルスの抵抗性遺伝パターンと不定根形成に及ぼす影響	大坂正明・板橋建・千葉直樹・津田花愛・足立陽子・佐々木厚・松下陽介	園芸学研究第18巻別冊1：園芸学会平成31年度春季大会研究発表
32	カラーピーマン施設栽培の収量と栽植密度の違いが労働生産性と収益に及ぼす影響	高橋正明・小池修・金子壮	園芸学研究第18巻別冊1：園芸学会平成31年度春季大会研究発表（ポスター）

5 表彰等

表彰名	受賞者	所属チーム名	実績のタイトル
所属長表彰	北川誉紘， 門間豊資	企画調整チーム （企画調整部）	研究成果の現場普及を促進する「先端プロ（社会実装促進業務委託事業）」の促進
所属長表彰	菅野千秋， 本多めぐみ， 鹿野弘， 高山詩織	情報チーム （情報経営部） 野菜チーム （園芸栽培部）	” にこにこベリー” デビューに向けたマーケティング
所属長表彰	澤里昭寿， 板橋建， 大坂正明， 櫻井晃治， 千葉直樹， 高橋勇人， 伊藤雅人， 大久保哲子	資源開発利用チーム 遺伝子工学チーム 品種管理チーム （バイテク部）	イチゴ新品種『にこにこベリー』の無病苗の育成
所属長表彰 （令和元年度 農政部長表彰）	尾形和磨， 鹿野弘	野菜チーム （園芸栽培部）	生鮮ハウレンソウで全国初・機能性表示販売を実現
所属長表彰	鈴木香深	虫害チーム （園芸環境部）	UV-Bによるイチゴのハダニ類の防除技術開発
所属長表彰	大場淳司， 近藤誠， 木村智志	病害チーム （園芸環境部）	落葉処理によるナシ黒星病被害軽減技術開発

6 刊行物・広報・普及資料の発行及び配布

試験研究成績概要書をはじめ、次のとおり発行・配布した。

名 称	配布先等	内 容
普及に移す技術 (第94号)	県内関係機関・団体等	普及に移すことが適当であると見込まれた試験研究成果を編集 平成31年4月 HPに掲載, CD-ROMで57部配布
宮城県農業・園芸総合研究所研究報告 (第87号)	県内外の関係機関・団体, 公設試験研究機関, 大学等	農業・園芸総合研究所終了試験研究課題等から作成 平成31年3月 300部発行
平成28年度宮城県農業・園芸総合研究所業務年報	県内関係機関・団体等, 東北地方公設試験研究機関等	農業・園芸総合研究所が平成28年度に実施した業務報告 平成31年3月 100部発行
平成30年度試験成績概要書	県内関係機関・団体等	農業・園芸総合研究所が平成30年度に実施した試験成績概要を編集 平成31年3月 60部発行

7 関係機関への講師派遣状況

件数	開催日	主な研修名	主催者	担当研究部
	平成30年			
1	4月24日	宮城県園芸振興大会	園芸振興室	企画調整部
2	4月27日	県北地域小ギク機械定植実演会	気仙沼農業改良普及センター	園芸栽培部
3	5月17日	J Aみやぎ亙理にこここベリー親株現地検討会	J Aみやぎ亙理いちご部会	園芸栽培部
4	5月21日	道の駅村田研修会	道の駅村田研修会	情報経営部
5	5月23日	J Aみやぎ亙理いちご部会講習会	J Aみやぎ亙理いちご部会	園芸栽培部
6	5月30日	J Aいしのまき果樹栽培講習会	J Aいしのまき	園芸栽培部
7	5月31日	気仙沼地域花き生産研修会	気仙沼農業改良普及センター	園芸栽培部
8	5月31日	カルビージャガイモ現地検討会	宮城県ぼてと生産者協議会	園芸栽培部
9	6月3日	せんだい農業園芸センター講義①	せんだい農業園芸センター	情報経営部
10	6月4日	J Aみやぎ仙南野菜栽培講習会	J Aみやぎ仙南	バイオテクノロジー開発部
11	6月5日	大河原地域花き生産講習会	J Aみやぎ仙南	園芸栽培部
12	6月19日	J Aみどりの加工・業務用野菜現地研修会	J Aみどりの	情報経営部
13	7月5日	トマトネットワーク勉強会	トマトネットワーク勉強会	情報経営部
14	7月6日	平成30年度宮城県梨現地検討会	園芸協会	園芸栽培部
15	7月12日	J Aみやぎ亙理にこここベリー講習会	J Aみやぎ亙理	園芸栽培部
16	7月12日	栗原地域防除担当者会議	J A栗っこ	園芸環境部
17	7月19日	宮城県ぼてと生産者協議会現地検討会	宮城県ぼてと生産者協議会	園芸栽培部
18	7月27日	栗原イチゴ部会現地研修会	栗原イチゴ部会	園芸栽培部
19	8月2日	栗原市果樹相互視察検討会	栗原市果樹連絡協議会	園芸栽培部
20	8月28日	亙理名取りんご栽培研修会	亙理名取果樹振興協議会	園芸栽培部
21	8月2日	J Aみやぎ登米キュウリ部会環境制御検討会	J Aみやぎ登米キュウリ部会	園芸栽培部
22	8月3日	J Aみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会	J Aみやぎ登米米山イチゴ部会	園芸栽培部
23	8月7日	登米寒締めホウレンソウ部会	登米寒締めホウレンソウ部会	園芸栽培部
24	8月17日	J Aみやぎ仙南西洋野菜研究会講習会	J Aみやぎ仙南	バイオテクノロジー開発部
25	8月21日	J Aみやぎ登米キャベツ現地検討会	J Aみやぎ登米	バイオテクノロジー開発部
26	8月22日	J A栗っこカボチャ現地検討会	J A栗っこ	バイオテクノロジー開発部
27	8月24日	J Aみやぎ亙理にこここベリー講習会	J Aみやぎ亙理	園芸栽培部

件数	開催日	主な研修名	主催者	担当研究部
28	9月4日	NOSAI宮城果樹部会会議	NOSAI宮城	園芸栽培部
29	9月12日	J Aみやぎ仙南水稻育苗箱養液栽培勉強会	J Aみやぎ仙南	園芸栽培部
30	9月19日	大崎地域施設園芸総合セミナー	大崎農業改良普及センター	園芸栽培部
31	10月3日	いちご生産者間ネットワーク勉強会	いちご生産者間ネットワーク勉強会	園芸栽培部
32	10月18日	JAみやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会	JAみやぎ登米米山イチゴ部会	園芸栽培部
33	10月18日	蔵王地区梨部会秋季防除研修会	J Aみやぎ仙南	園芸環境部
34	10月31日	平成30年度園芸協会果樹専門部会	園芸協会	園芸栽培部
35	11月9日	栗原イチゴ部会現地検討会	J A栗っこ	園芸栽培部
36	11月15日	JAみやぎ亙理いちご部会講習会	J Aみやぎ亙理	園芸栽培部
37	11月20日	石巻環境制御勉強会	石巻農業改良普及センター	園芸栽培部
38	12月3日	平成30年度宮城県なし栽培研修会	園芸協会	園芸環境部
39	12月10日	J A古川なす部会病虫害技術研修会	古川農協なす部会	園芸環境部
40	12月13日	JAいしのまきブドウせん定講習会	JAいしのまき	園芸栽培部
41	12月14日	平成30年度みやぎの野菜セミナー	園芸協会	園芸環境部
42	12月20日	J Aみやぎ仙南ブントレッラ目揃い会	J Aみやぎ仙南	バイオテクノロジー開発部
	平成31年			
43	1月10日	平成30年度宮城県りんご栽培研修会	園芸協会	園芸栽培部
44	1月31日	J Aみやぎ登米りんご剪定講習会	J Aみやぎ登米	園芸栽培部
45	3月7日	仙南地域トップセミナー	J Aみやぎ仙南	バイオテクノロジー開発部

8 展示, その他広報

1) 展示会への出展

開催日	催事名	内容
平成30年10月16日	全国土地改良大会宮城県大会 パネル展示 テーマ：宮城の先進的研究事例紹介	農業・園芸総合研究所「先端プロ（露地園芸） 機械化体系・作型・緑肥すき込み 他 先端プロ（3年4作・プラウ耕乾田直播）
平成30年10月20日 ～21日	みやぎまるごとフェスティバル2018	昨年まで実施した「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果から、「紫外線や天敵などを活用した病虫害の防除技術」を紹介（園芸環境部）
平成30年11月20日 ～22日	アグリビジネス創出フェア2018 （東京ビッグサイト）	「食料生産地域再生のための先端技術展開事業の実証研究」をテーマにした展示・試食

2) 雑誌等への掲載

件数	題名	執筆者	雑誌名
1	イチゴ新品種「にこにこベリー」の育成	高山詩織	施設と園芸 No. 181 (2018春) ミニ情報 (平成30年4月25日発行)
2	水稲育苗箱を利用した小ネギの簡易養液栽培	鹿野弘	農業技術体系「野菜編」第8-①巻 ネギ, 及び「ネギ大辞典」(平成31年1月発行)
3	宮城県の取組～園芸生産の産地復興～	高山詩織	ハイドロポニックス第32巻第1号 2018年9月15日発行 (特集東日本大震災から7年)
4	ハダニ, コナジラミなどに高い効果	関根崇行	日本農業新聞 新規広告企画「気門封鎖剤特集」
5	イチゴ萎黄病の発生生態と防除対策	大場淳司	技術と普及 平成30年7月号
6	秋まき用品種を生かして春まき栽培 10a5.8t どり (もみじ3号, ネオアース)	澤里昭寿	農業技術大系 野菜編 第8-②巻 タマネギ精農家事例
7	パプリカにおける日射量に基づく着果数及び収量予測方法の確立	金子壮	「施設と園芸」No. 183 (2018秋) ミニ情報 (平成30年10月25日発行)
8	ハウレンソウのルテイン機能性表示販売に向けた実証研究	尾形和磨	雪印種苗(株)2019年「牧草と園芸」別冊 野菜特集号
9	キャベツ複数技術組み合わせ農薬半減大麦リピングマルチ主体に総合防除	関根崇行	全国開拓振興協会誌「開拓情報8月号」
10	収量及び果形に優れ年内収穫可能なイチゴ新品種「にこにこベリー」	高山詩織	(一社)全国農業改良普及支援協会 農業サイト「みんなの農業広場」注目の農業技術 (2018年10月)
11	宮城県における「シャインマスカット」の加温栽培	庄子雅和	「果実日本」2018年10月号
12	リンゴのジョイント栽培の課題と可能性	大沼欣生	「果実日本」2019年1月号
13	キュウリホモプシス根腐病に対する土壌還元消毒の効果の持続性	近藤誠	土づくりとエコ農業 (2018年12月/2019年1月号)
14	転炉スラグによる土壌pH矯正と耐病性品種を併用したイチゴ萎黄病の被害軽減技術	大場淳司	土づくりとエコ農業 (2018年12月/2019年1月号)
15	早期多収・省力栽培を可能にする側枝上方誘引型リンゴジョイント栽培	高田万里子	誠文堂新光社発行農業技術情報誌「農耕と園芸」2019年2月号
16	ナシ黒星病の罹病落葉の処理による第一次伝染源の除去	近藤誠	植物防疫みやぎ第126号 (平成30年8月発行)
17	気門封鎖剤の効果的な利用方法について	関根崇行	植物防疫みやぎ第127号 (平成31年1月発行)
18	震災復興に向けた宮城県内におけるブドウ「シャインマスカット」の実証研究と現地での取組	大沼欣生・柴田昌人	大日本農会誌「農業」平成31年1月号
19	秋播き+晩秋播き+春播き 三つの作型を組み合わせ、タマネギの6～7月連続収穫	澤里昭寿	現代農業 平成31年3月号
20	キャベツの長期無追肥育苗による生育斉一化技術	澤里昭寿	グリーンレポートNO. 589 (平成30年7月1日号)

3) インターネットによる情報提供状況

農業・園芸総合研究所ホームページにおいて、普及に移す技術、試験研究だより等の情報提供を行った。

ホームページアドレス https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/

件数	更新日	内 容
1	平成30年 5月18日	農産物に関する消費者モニター募集を掲載
2	6月1日	普及に移す技術/第93号(平成30年4月)を掲載
3	6月1日	研究PRパンフレットに「大麦を利用したリビングマルチによる害虫抑制効果」を掲載
4	6月1日	研究PRパンフレットに「イチゴ新品種「にこにこベリー」を掲載
5	7月2日	研究PRパンフレットに「飼料用稲奨励品種「たちあやか」を掲載
6	8月31日	イベント情報に「みやぎの農業試験研究一般公開2018「農園研体験デー」」を掲載
7	9月11日	研究PRパンフレットに「増収技術と省力栽培技術を導入したブドウ「シャインマスカット」の新技术導入栽培体系」を掲載
8	9月11日	研究PRパンフレットに「キュウリモザイク病対策としてのウイルス弱毒株(ウイルスワクチン)接種苗の利用」を掲載
9	9月14日	イベント情報に「水稻育苗ハウスの有効利用技術～ミニトマト栽培と作業者の暑熱対策～」現地研修会を開催しました(平成30年9月4日)」を掲載
10	10月1日	研究トピックスに「ドローン空撮画像による野菜生育均一性及び土壌水分の評価手法の確立」を掲載
11	10月1日	研究トピックスに「日本一の成績で「茂福久(しげふくひさ)」号が基幹種雄牛に認定されました」を掲載
12	10月1日	研究PRパンフレットに「イチゴの草高, 受光葉面積を計測できる3次元形状計測センサの活用」を掲載
13	10月1日	研究PRパンフレットに「身近な低出力トラクタを利用してできる浅層暗渠の施工」を掲載
14	11月7日	研究トピックスに「古川農業試験場参観デー」を開催しました」を掲載
15	11月7日	研究PRパンフレットに「キャベツの長期無追肥育苗による生育斉一化技術」を掲載
16	11月29日	研究トピックスに「農業生産工程管理(GAP)の普及, 拡大に向けた取組について」を掲載
17	平成31年 1月11日	研究トピックスに「宮城県養豚研究会 平成30年度第1回研究集会について」を掲載
18	1月11日	研究トピックスに「スプレーカーネーションのEOD-heating処理による燃油消費量削減 その2」を掲載
19	1月30日	研究PRパンフレットに「水稻湛水直播栽培ベンモリ種子の長期保存方法」を掲載
20	1月30日	研究トピックスに「大麦新奨励品種「ホワイトファイバー」の一般作付けに向けて」を掲載
21	2月21日	研究トピックスに「平成30年度古川農業試験場成果報告会の開催」を掲載
22	2月21日	研究PRパンフレットに「循環扇と各種技術を組合せたキュウリ病害の防除体系」を掲載
23	3月8日	研究トピックスに「新種雄牛舎および精液採取棟が完成しました」を掲載
24	3月8日	研究PRパンフレットに「キャベツ(秋冬どり)とタマネギ(春まき)の機械化一貫体系導入を検討するための「担い手経営体モデルシミュレーションシート」を掲載

IV 試験研究の概要

1 平成30年度農業関係試験研究の基本方針及び主要目標

1) 基本方針

平成23年3月11日に発生した東日本大震災（以下、震災という。）において、水稲や園芸が盛んな沿岸部は津波による甚大な被害を受け、食料生産地域としての機能が大きく低下した。また、東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質による農地の汚染と農畜産物に対する風評被害ももたらされた。

これらの状況を踏まえ、平成23年には「第7次試験研究推進構想(平成23～32年度)」と併せて、「農業の早期復興のための試験研究推進計画(平成23～27年度)」を策定し、農業の早期復旧を優先した試験研究に取り組んできたところである。特に、平成24年度から平成29年度までは、東日本大震災の被災地域を新たな食料生産地域として再生するため、先端的な農林水産技術を駆使した大規模な実証研究を行う農林水産省の「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」を10課題（平成28年度の統合後6課題）で実施し、多くの研究成果が得られた。

しかしながら、一部地域では土壌塩分濃度の再上昇がみられたり、極端に地力が低下している復旧圃場もあり、引き続き技術的な対策が必要となっている。また、放射性物質対策についても検査体制や一部の対策については確立されたものの、長期的影響を考慮し、今後も対応が必要である。さらに、震災以降に設立された大規模農業生産法人の経営の安定化が急務であり、農業関係試験研究の役割として、これまでに開発された先端技術の現地への最適化や新たな技術の開発等による法人への継続的支援が必要となっている。

他方、「みやぎの農業・農村復興計画（平成23～32年度）」では、平成30年度から平成32年度までを「発展期」に位置づけており、新たな時代の農業・農村モデルの構築のため、経営規模の拡大や6次産業化などによる農業経営の強化・発展を図ることとしている。また、第2期「みやぎ食と農の県民条例基本計画(平成23年～32年度)」は平成28年3月に見直され、従来から4つの施策推進の基本項目である「消費者が求める安全・安心な食料の安定供給」、「マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展」、「農業・農村の多面的な機能の発揮」及び「農村の活性化に向けた総合的な振興」の実現のため、震災後に生じた様々な社会情勢の変化への対応を盛り込む改訂が行われた。

これらを受けて、宮城県産業技術開発推進要綱に基づき平成28年8月に策定した「第8次農業試験研究推進構想（平成28～32年度）」は、「震災復興に向けた継続的な支援研究」として位置付けながら、上記基本計画における試験研究の役割、すなわち施策10「生産力と品質を高める農業技術の高度化」に示された「地域特性に応じた技術の開発・普及」を引き続き推進することとし、同施策に新たに加えられた「スマート農業の取組推進」にも一定の役割を果たしていくこととした。

以上のことを踏まえ、「平成30年度農業関係試験研究計画」では、本構想期間の3年目として、当該7主要目標の実現に向けて、着実な研究の推進を図ることとする。

2) 主要目標

「みやぎの農業・農村復興計画」及び「みやぎ食と農の県民条例基本計画（平成28年3月改訂）」に基づき、「第8次農業試験研究推進構想（平成28～32年度）」に示した7つの主要目標に向け試験研究に取り組む。

(1) 農業の東日本大震災からの再生と発展に向けた復興支援

震災直後の緊急を要する対策は概ね完了したが、継続的に対処すべき技術課題が残されている。復旧農地での客土、大規模畑地造成による地力低下や排水不良などを改善するため、地力増進や土壌物理性改善に向けた有機物資材の施用技術を確立し、復旧農地での生産安定化を図る。

また、今後の農業の将来的発展のために、国、大学、関連企業等との連携により、先進的な情報処理技術を活用した生産性の高い水田農業技術や大規模施設園芸経営体の収益性向上に向けた栽培管理手法等を開発する。

一方、放射性物質は農地土壌に長期間残存することから、引き続き農畜産物の放射性物質汚染を防止し、消費者及び生産者に信頼される安全な農畜産物生産を確保していく必要がある。そのため、生産過程における放射性物質の動態を継続的に把握しながら、農作物生産及び飼料作物へのより効果的な放射性物質の吸収移行抑制技術を検討する。

(2) 食材王国みやぎを支える農畜産物の創出

消費者や実需者の農畜産物への要求は、良食味で新鮮なものを、安価で利用しやすく、また、さらに機能性の高く安全なものと、きわめて多様化、高度化している。

これら要求に呼応するみやぎブランドを確立し、新品種・系統の育成や気象変動にも対応しつつ高品質化に向けた栽培・飼養法等を開発する。また、第三者認証GAP導入に向けたガイドや6次産業化の経営モデルを策定し、消費者・実需者ニーズに応える農畜産物の生産体制を支援する。また、生産資材の適正使用やカドミウム対策にかかる試験を通じて生産物の安全性の確保を支援することで本県農畜産物の生産・消費拡大につなげる。

(3) 環境に配慮した農業技術の確立

資源大量消費型の農業生産活動から、農村環境の維持や二酸化炭素、メタンガスの発生抑制等、環境を保全し負荷を低減する農畜産物生産への転換が急務になっている。

このため、未利用有機物質の周辺環境に影響の少ない処理技術及びその特性を生かした代替肥料としての利用技術を開発し、化学肥料を削減する栽培管理方式を確立する。また、周辺環境に対して影響の少ない総合的な病害虫・雑草防除技術を組み立て、地域の生態系と調和した持続的農業を推進し、環境にやさしいみやぎ型の資源循環型農業の定着に寄与する。

（４）環境変動に対応する技術の確立

近年、記録的な高温や低温、豪雨、暴風など災害につながるような大規模な異常気象が頻発する傾向にある。また、本県特有のヤマセ等に伴う影響を軽減させるための適応策強化も求められている。

こうした気象変化にも耐え得る品種、品目や作型、栽培・飼養管理技術などの開発とともに、温暖化の進行が予測される本県の農業生産環境において、これに対応できる栽培・作業技術の確立を目指す。

（５）効率的な農地利用のための技術の確立

水田を基盤とする本県農業では、将来にわたり優良農地の確保と農地の効率的な利用促進を図る必要があり、輪作体系の確立と水稻の多目的な利用が望まれている。また、水田や畑地における飼料作物の安定生産技術を確立することにより、飼料作物の自給率の向上が求められている。

このような状況に対応するため、水田の高度利用や環境に配慮した効率的なみやぎ型ほ場整備手法や管理技術の開発、飼料向け水稻及び飼料作物の安定した高品質多収技術・給与技術の確立を図る。

（６）省力・低コスト・軽労化技術の確立

本県農業は、他産業からの参入を含めた大規模農業生産法人等による農業経営が進む一方、農村地域の農業者の減少や高齢化による担い手不足が懸念されている。また、震災を契機に新たに設立した大規模施設園芸経営体では、従業員の栽培労務管理が生産性に影響することが明らかとなってきた。

このような課題を解決するため、新規参入者や高齢者等の多様な担い手が従事しやすいよう、技術習得が容易で作業負担が軽く、省力かつ低コストな生産技術を開発するとともに、大規模施設園芸経営体毎の実情に合った栽培労務管理手法の確立を図る。

（７）先端技術を活用した農業技術の確立

先進的な経営体の育成を図るため、先進技術を活用した農畜産物の開発及びその利用技術の実用化が求められている。

このため、遺伝子情報の解析等、バイオテクノロジーを利用した有用品種の育成や迅速な病害虫診断技術の開発を進める。

また、先進的な農業経営体における、農地利用や環境制御、家畜管理等へのICTの活用やロボット技術の導入を提案することで、スマート農業の実現を支援する。

2 平成30年度農業関係試験研究主要課題

1) 農業の東日本大震災からの再生と発展に向けた復興支援

(1) 農業生産力の回復に向けた継続支援

- 農地の立地条件や被害程度により、除塩達成に時間を要する地域での営農再開に向けて、耐塩性水稻品種の開発を行う。
- 津波被災農地における除塩後の地力や物理性などの土壌調査及び有機物施用による土壌物理性改善の検討を行う。

(2) 先端技術による震災後の農業発展に向けた支援

- 省力・低コスト稲作実現のため、「ひとめぼれ」の鉄コーティング直播栽培及び疎植栽培による高品質安定収量が確保できる技術を確立する。
- 水稻の生育・生産情報から、ほ場毎の肥沃度や生産力をICT技術等の活用によって数値化・見える化し、最適な肥培管理を行うための技術を開発する。
- 大規模半閉鎖型植物工場のトマト、パプリカの多収に向けた高度複合環境制御技術や、生産性の向上につながるICT技術を活用した省力・低コスト生産技術等の開発を行う。
- リンゴ栽培において、機械化が容易なジョイントV字樹形による自動収穫ロボットの導入等により、安定生産及び大幅な省力化が可能な技術を開発する。
- 水稻育苗ハウスを利用した春まきタマネギの安定性生産技術を確立するとともに、水稻育苗箱を利用した簡易養液栽培を開発する。
- 大規模施設園芸経営体における雇用作業者の確保や能力向上を図る手法等を確立する。
- 津波被災復旧農地における土地利用型野菜生産の早期経営安定を図る効率的ほ場管理技術等を確立する。

(3) 放射性物質の動態把握と吸収抑制対策

- 農畜水産物等の放射性物質検査計画に基づき、野菜や果実の放射性物質の精密検査を実施するとともに、県内農地土壌の放射性物質等の分布状況を調査する。
- 土壌から農産物への放射性核種の移行動態を解析する。
- 土壌の物理的土壌改良や特定の施肥や土壌改良資材の施用による放射性物質の農作物への吸収移行抑制技術を検証する。
- 放射性物質に汚染された堆肥から牧草への放射性物質の移行低減技術について検討する。

2) 食材王国みやぎを支える農畜産物の創出

(1) みやぎオリジナル品種の育成と新品目の導入

- 水稻については、高品質、良食味米の開発とともに、多様な実需者ニーズに対応できる品種開発に取り組む。

- 麦類・大豆では加工用途及び加工適性を解明し、実需者が求める高品質生産技術と安定供給体制を確立し、新品種の県内への導入を図る。
- みやぎブランドの産地形成を促進するために、野菜・果樹・花きの本県オリジナル品種を開発するとともに有望な新規品目を導入する。

(2) みやぎブランド農畜産物の安定生産・出荷のための技術開発

- 消費・実需者の需要に対応し、作物の出荷時期、数量、品質等を確保する技術を開発する。
- 水稲では、高品質・極良食味米を安定生産する栽培技術を開発する。また、需要に応じた加工適性を有する麦・大豆の安定生産技術を確立する。
- 新たな園芸品目の産地形成に寄与できる栽培技術を確立する。
- ブランド畜産物の品質維持のための種畜造成や生産方式、飼養管理技術を確立する。

(3) 消費者・実需者ニーズに応える経営手法の解明

- 経営体の生産・販売活動を支援するため、一連のマーケティング・サイクルに即した商品企画・開発支援手法を確立する。
- 経営体への新技術・部門・認証制度等の導入・定着条件を解明し、参考とすべき経営モデルを策定する。

(4) 生産資材の適正使用とリスク管理支援

- 農産物の安定生産のため、殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬登録に必要な調査及び新肥料・資材の効果と影響の調査を行う。
- 安全な農産物生産に向け、重金属の吸収を抑制する技術を開発する。
- 産業廃棄物を既存資材の代替として利用することで、産業廃棄物の利用推進及び低コスト化を図る。

(5) 優良種子・種畜の安定生産技術の確立

- 水稲・麦類・大豆優良種子及び県オリジナル品種の種苗、イチゴの基核苗、果樹の優良母樹等を生産・供給する。
- バイオテクノロジー技術を応用して種雄牛を選抜し、市場性の高い子牛生産の基礎となる優良な種雄牛の造成体制を構築する。
- 肉質と肉量のバランスを考慮した宮城の特色ある種雄牛を早期に造成するために、体外受精技術を活用した新たな産肉能力検定システムを確立する。
- 優良な種豚を生産・配布するとともに、凍結精液による人工授精技術の向上を図る。

3) 環境に配慮した農業技術の確立

(1) 環境負荷を軽減する病害虫・雑草管理技術の開発

- 発生予察や早期診断及び要防除水準を活用しつつ、病虫害や雑草の被害を経済的に許容できる水準に抑制する I P Mや I W M技術を確立する。
- 農薬の過剰散布を回避できる環境負荷低減技術の効果を明らかにするとともに、より環境保全に配慮した農薬使用基準の設定に寄与する。

(2) 温室効果ガスの排出を抑制する資源循環型農業技術の開発

- 本県農地の土壌炭素量を把握し、たい肥等の有機質資材を活用した適正な施肥・土壌管理技術や家畜排せつ物の肥料化技術の開発等、資源循環型農業の推進方法を確立する。

4) 環境変動に対応する技術の確立

(1) 気象変動や気候温暖化に対応する農業技術の開発

- 本県特有のヤマセ等の影響を回避するため、耐冷性・高温耐性・いもち病抵抗性が強く、「ひとめぼれ」、「ササニシキ」に代わる安定多収良質良食味水稻品種開発する。また、気象情報を活用した栽培管理技術を確立する。
- 温暖化の進行に対応できる栽培管理技術を確立する。

5) 効率的な農地利用のための技術の確立

(1) 効率的なほ場基盤の整備と水田の高度利用技術の確立

- 地域条件に対応した水田ほ場の高度利用のための効率的なみやぎ型ほ場整備手法や管理技術を確立する。
- 地下水位制御システムを多面的に活用した、水稻・麦・大豆の高品質安定多収栽培技術を開発し、汎用化水田の高度利用を図る。

(2) 水稻の多面的利活用技術の確立

- 需要に応じた多彩な多用途水稻品種を開発する。また、米粉や飼料用米等の新規需要米の低コスト多収栽培技術を確立するとともに、飼料としての有効性を評価する。

(3) 飼料作物の高位安定生産技術の確立

- 田畑における飼料作物の高位生産技術とともに、飼料作物の県内適応品種選定、湿害作条件下での安定生産技術等を確立することにより、飼料自給率の向上を促進する。

6) 省力・低コスト・軽労化技術の確立

(1) 省力・低コスト化技術の開発

- 土地利用型作物の省力・低コストな安定生産技術を確立する。
- 園芸作物を効率的に生産するため、技術の容易化・マニュアル化が可能となる省力・低コスト技術を開発する。

（２）軽労化・農作業環境の改善

- 施設園芸の高収益化に向けて、作業管理等に人工知能を利用するための技術を開発する。
- 大規模施設園芸経営体における雇用作業者の確保や能力向上を図る手法等を確立する。

7) 先進技術を活用した農業技術の確立

（１）遺伝子情報とバイオテクノロジーの利用開発

- DNA鑑定技術を利用した病虫害等診断システムを開発するとともに、DNAマーカー等の先進技術を活用して、高度いもち病抵抗性・耐冷性極良食味水稻品種を効率的に開発する。
- 繁殖及び産肉能力に優れた系統豚を活用し、新たな交配方式や肉豚生産方式を確立することにより、系統豚の利用推進を図る。
- 牛及び豚の遺伝子情報と経済形質の解析により、抗病性や優良な遺伝子を保有する種畜の育種技術を確立する。
- 肉牛の受精卵移植技術を活用した種雄牛造成システムを確立し、同技術により優良な種畜の配付によって、牛群の改良を促進するとともに、クローン胚作成技術を開発して検定の精度を高め、種雄牛の造成を促進する。
- 園芸品目の主要病害の診断技術メニューを作成するとともに、この診断技術を用いて依頼診断等に対応するなど、本県における病害診断体制を確立する。

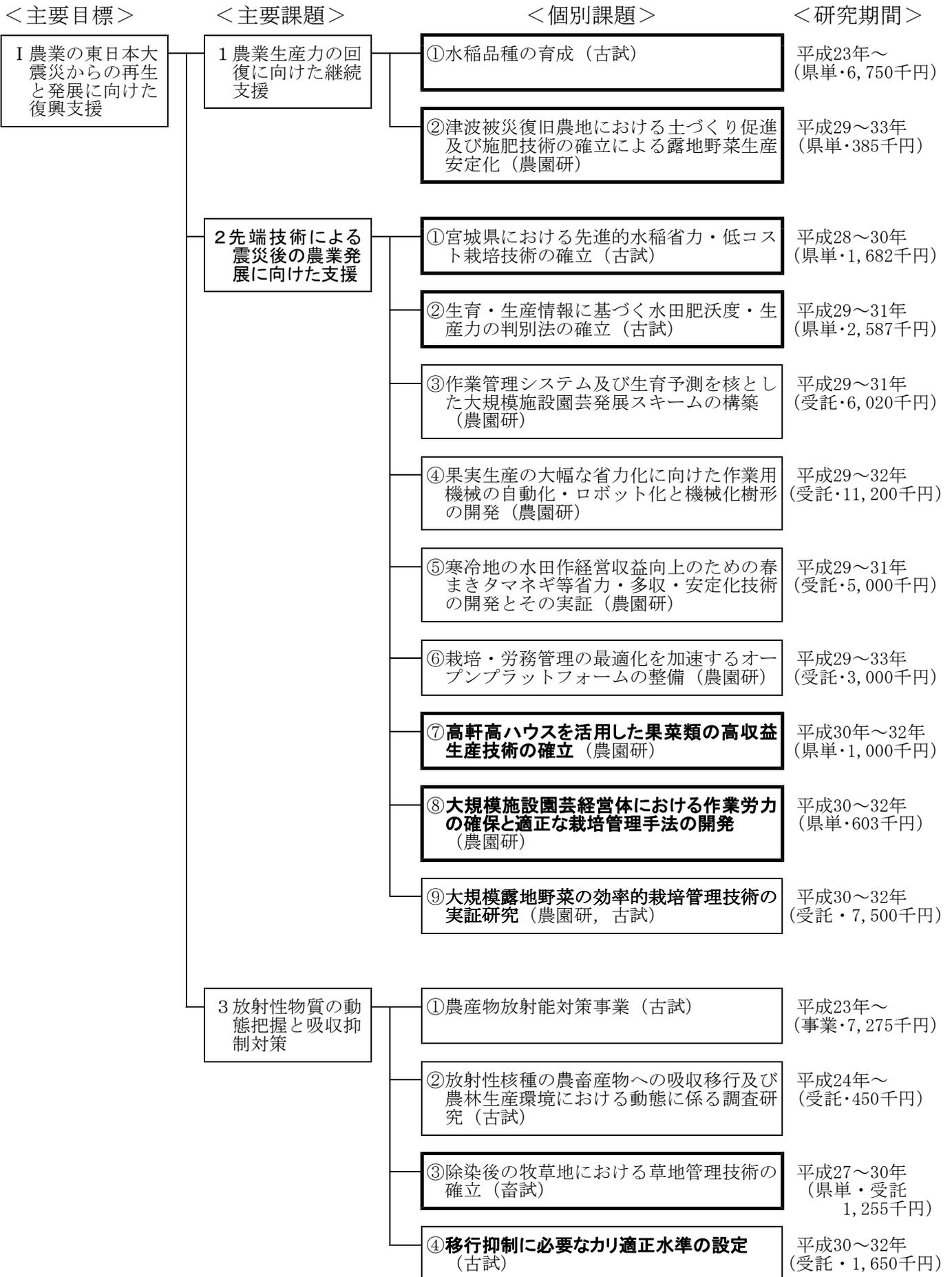
（２）スマート農業を実現するICT・ロボット技術の活用支援

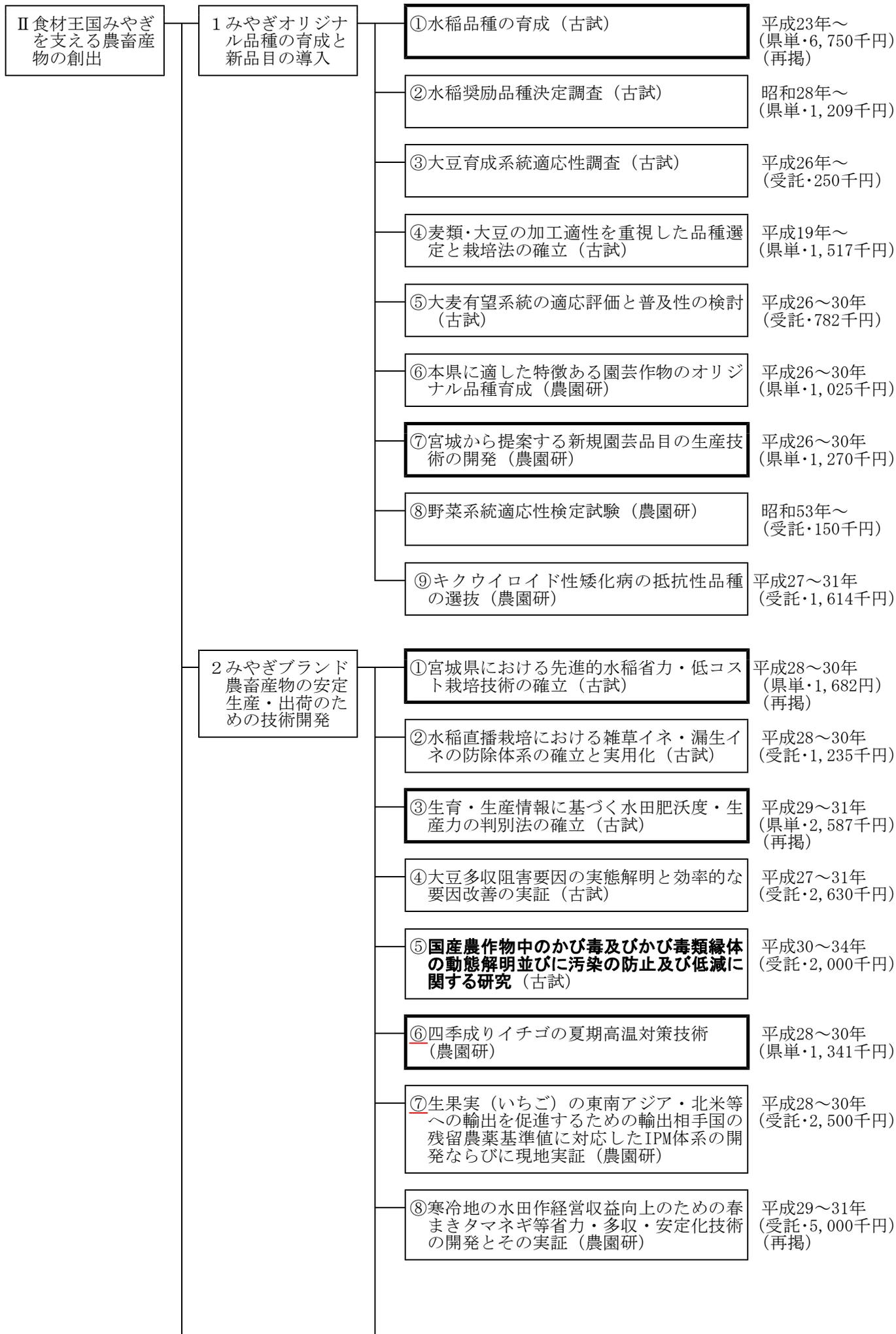
- 大規模土地利用型農業法人等を想定し、ICT技術を活用して、農地特性を把握し、これをもとに効率的に農地を管理する手法を検討する。
- 先進的な園芸施設を導入した大規模農業経営体等、経営体におけるICTの活用を支援する。
- 新たなセンサー技術による農業関連情報の取得と経営・栽培管理への高度利用の可能性を検討する。
- 収穫作業ロボットの導入を可能とする果樹栽培樹形を開発し、ロボット技術の導入条件を検討する。
- ICTを導入した経営資源の管理手法や効果等の検証を行う。

（３）みやぎのオリジナル技術シーズの開発支援

- 宮城県農業の継続的な発展に資する技術革新や現場課題の解決に貢献しうる技術シーズの開発のための有益なアイデアをもつ研究員に対して、一定の裁量の下、実用化に向けた予備的調査・研究に取り組む機会を提供する。

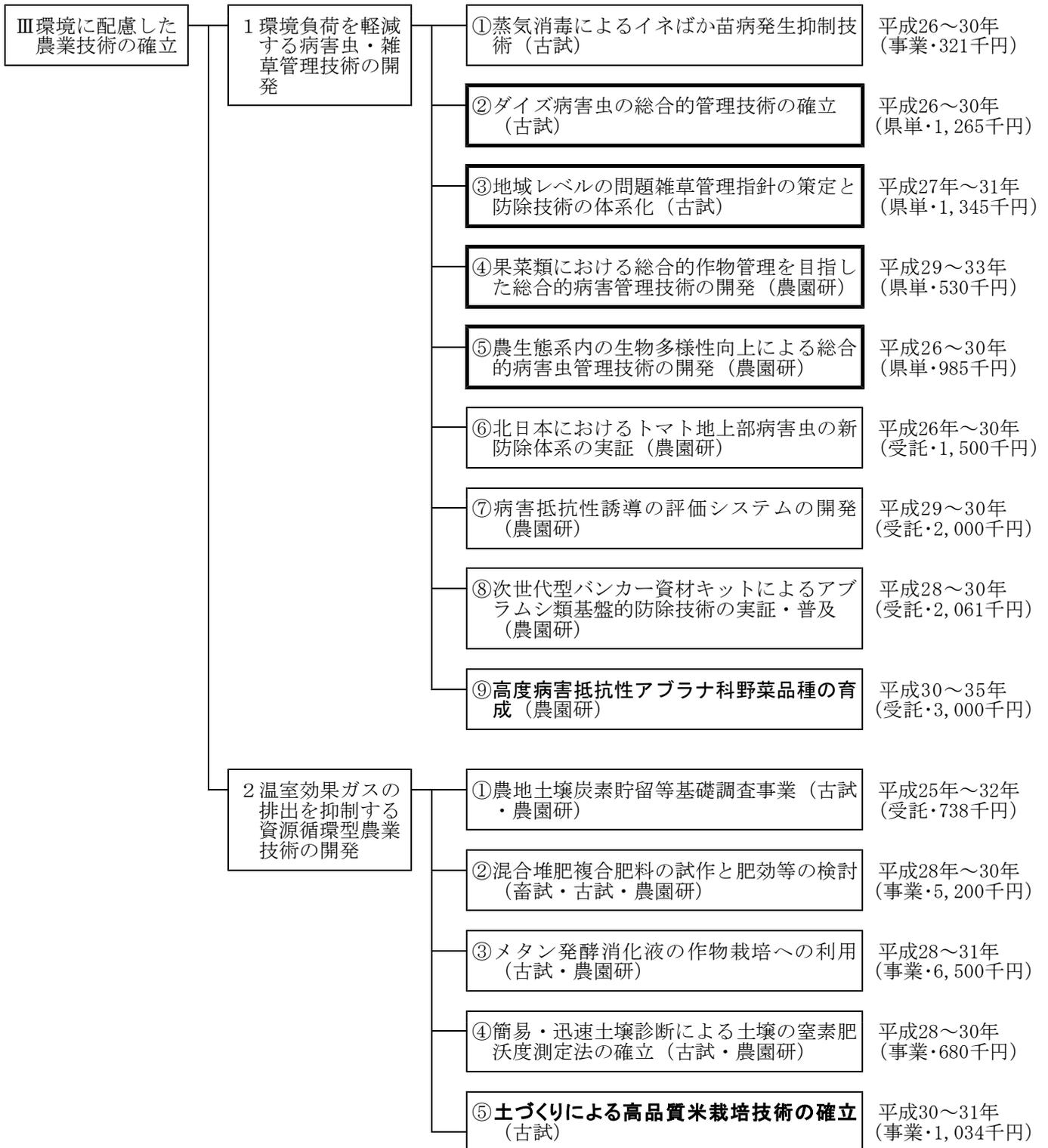
3 平成30年度農業関係試験研究課題体系図

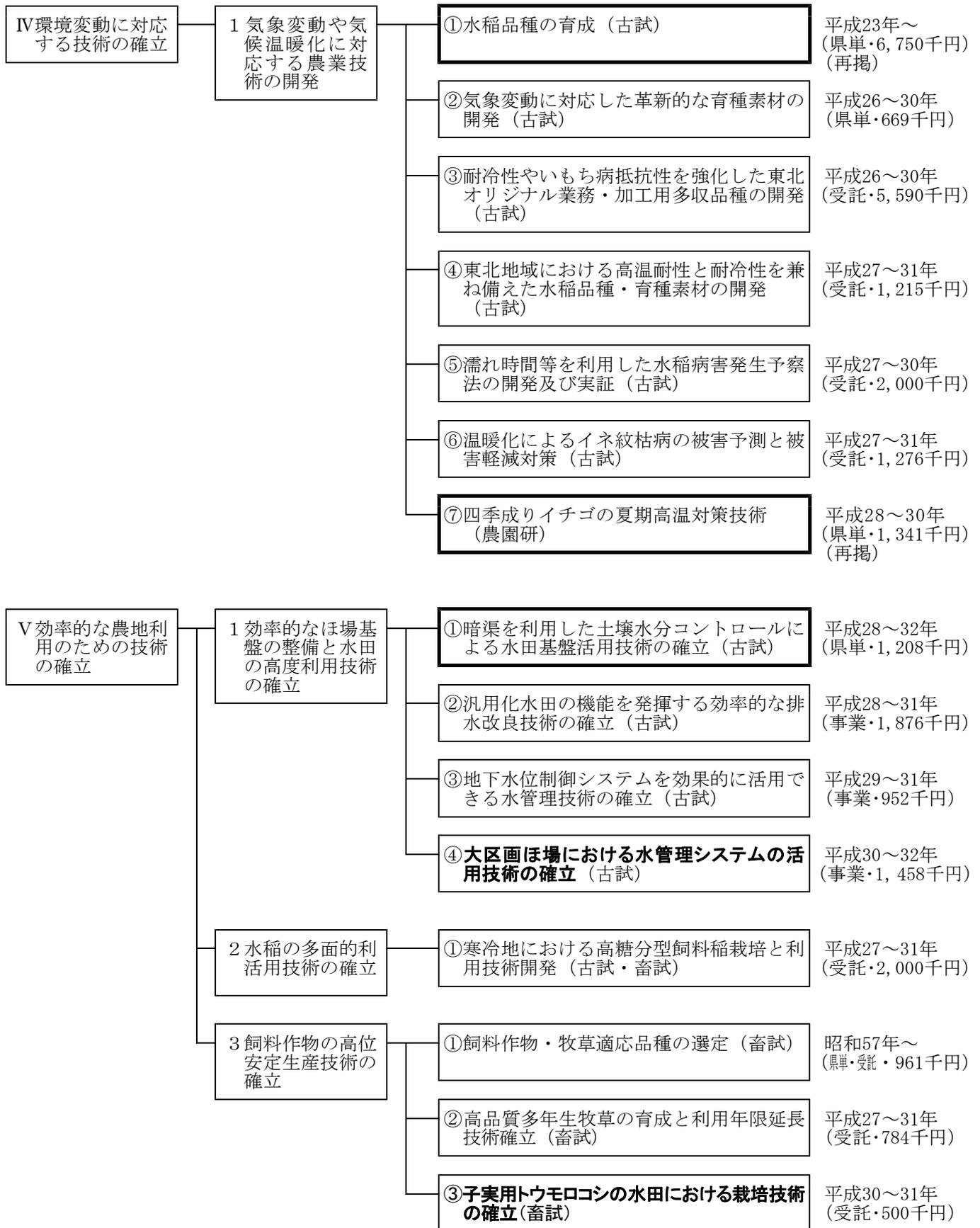


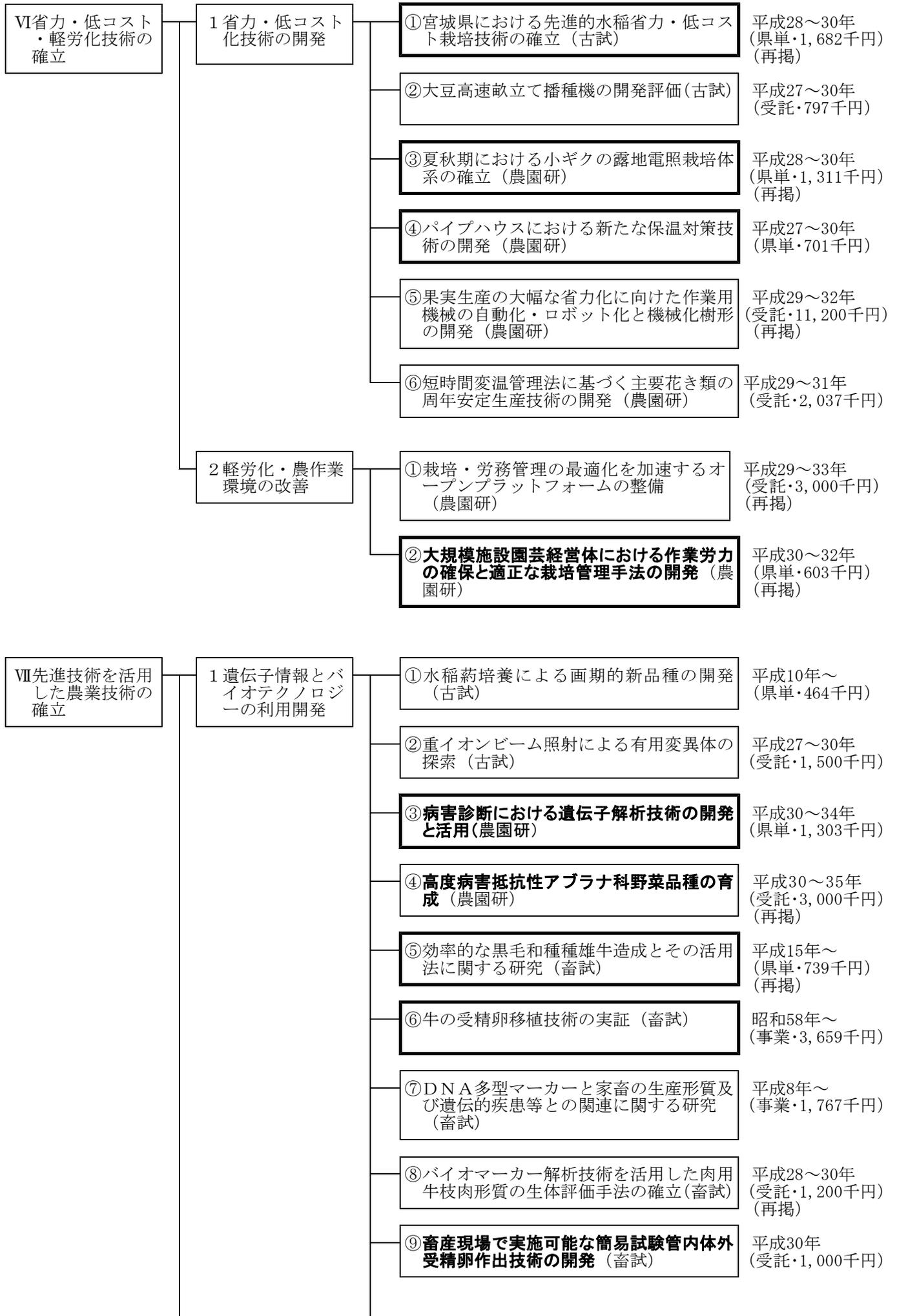


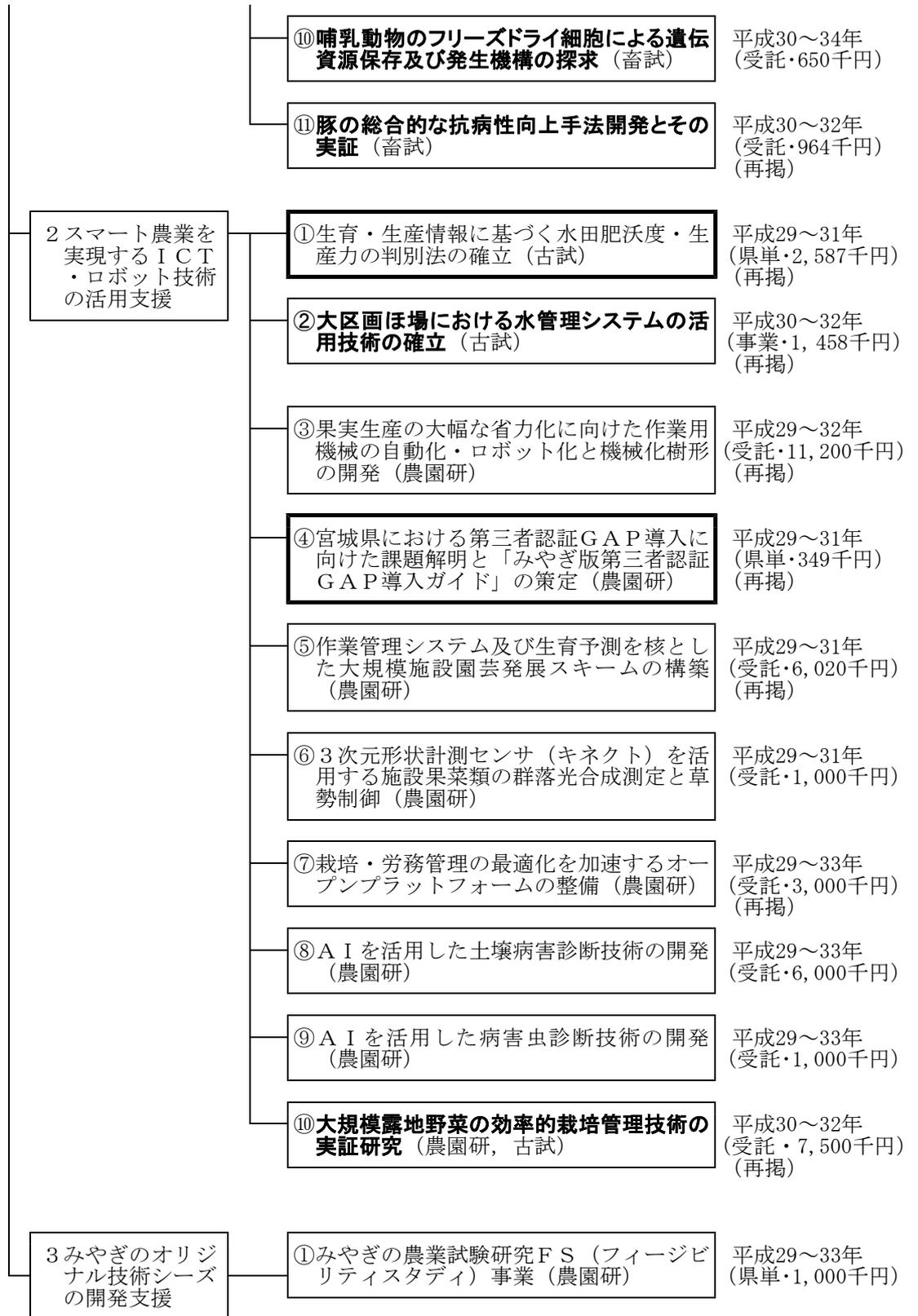












【調査事業等】

①農作物有害動植物発生予察事業	(農園研, 古試)	昭26～	(事業)
②稲作地帯別好適生育型策定と安定多収の機作解明の技術確立	(古試)	昭62～	(事業)
③生育調査ほ	(古試)	昭40～	(事業)
④主要農作物高位安定生産要因解析 (作況試験)	(古試)	昭63～	(事業)
⑤農薬残留対策調査事業	(農園研)	平9～	(事業)
⑥農薬登録拡大推進事業	(農園研)	平15～	(事業)
⑦農用地土壌汚染防止対策推進事業	(古試)	平7～	(事業)
⑧肥・飼料検査取締業務	(古試)	平11～	(事業)
⑨乳用牛群検定指導強化事業	(畜試)	昭61～	(事業)
⑩農薬安全使用指導事業	(古試)	平27～	(事業)
⑪ 先端技術展開事業の研究成果の社会実装促進	(農園研)	平30～32	(受託)

注) 個別課題枠：—— は経常的研究課題 ——— は重点的研究課題 **ゴシック体太字**は新規課題
「県単」：県単独研究, 「国補」：国庫補助等研究, 「受託」：受託研究, 「事業」：事業研究

4 各部の概要

1) 情報経営部

農業経営学の手法を用いて、農業分野の発展に関する課題や作業機械関連の試験に取り組んだ。農業早期復興プロジェクトの一環として、被災地域における農業経営モデルの試算や地下水の塩害対策等に取り組んだ。先端技術展開事業では、経営体への先端的営農技術の導入について、経営診断手法を用いた分析・評価等に取り組んだ。

○平成30年度の概要

情報関係では、6次産業化を検討する事業者の支援ツールとして、6次産業化に取り組んでいる事業者の聞き取り調査等から「6次産業化の検討に向けたチェックリスト」を作成した（普及に移す技術94号、普及技術）。また、県内大規模施設園芸経営体への聞き取り調査から、県内大規模施設園芸経営体における労務・雇用管理の現状を明らかにし（普及に移す技術94号、参考資料）、第三者認証GAPにおける団体・グループ認証事務局への聞き取り調査及びアンケート調査から、団体・グループ認証の体制とメリットを明らかにした（普及に移す技術94号、参考資料）。さらに、県産イチゴ販路拡大に向け、「農産物に関する消費者モニター」アンケート調査から消費者ニーズ等を明らかにした（「ここにこベリー」栽培マニュアル、H31.3月発行）。

経営関係では、消費者が求める環境にやさしい活力のある地域農業の構築のために、総合的病害虫・雑草管理の定着条件について検討し、その中からIPM（主に天敵導入）先進地においての、天敵のメリット・デメリット、天敵が地域的に定着するための取組について情報提供を行った（普及に移す技術第94号、参考資料）。また、大規模水田作経営における春まきタマネギ、小ネギ等の栽培等データを収集し、経済性及び経営評価を行った。さらに、露地野菜導入を推進するため、優良事例での聞き取り調査から、大ロットでの需要に対応するための生産販売体制を明らかにするとともに加工・業務用野菜の経営指標を用いて生産販売モデル（案）を策定した。

作業技術関係では、「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」で得た成果「作業者の暑熱軽減対策」（普及に移す技術第93号、普及技術）の現地実装を促進するため（株）パスカファーム立沼における現地実証や指導者等を対象とする現地研修会等を推進した。また、大規模施設園芸経営体における合理的作業管理方法の確立へ向けて、（株）デ・リーフデ北上と協力して作業効率と作業者の身体負担の両面から分析を行うことにより作業工程合理化と作業負担軽減を実現した。また施設園芸においても労働力不足が深刻化する中、作業者の継続就労条件と作業能率向上、効果的なマニュアル化へ向けた実態調査を行った。さらに3次元計測センサを用いて、昨年度までのイチゴに加えてパプリカにおいても群落受光量を推定し草勢を判断できることを確認するとともに、AIを活用した栽培・労務管理の最適化へ向けたデータ収集を行った。

2) バイオテクノロジー開発部

バイオテクノロジー手法を用いた育種や病害虫の診断・防除技術の開発、国内外の有用遺伝子資源を活用した新規品目の検索、主要農作物原種の生産に関する試験研究に取り組んだ。先端技術展開事業では、露地野菜の生産を定着・拡大させるための研究開発及び現地実証研究に取り組んだ。

○平成30年度の概要

遺伝子工学関係では、キャベツ秋冬作において、大麦リビングマルチと昆虫寄生性糸状菌製剤を併用することで、チョウ目害虫に対し高い防除効果が得られることを明らかにした（普及に移す技術第94号、普及技術）。また、ろ紙粉末を利用して植物ウイルス由来の二本鎖RNAを検出する病害診断技術を確立した（普及に移す技術第94号、参考資料）。

資源開発利用関係では、タマネギ栽培において晩秋まき栽培を慣行秋まき・春まき栽培に組み合わせると、6月から7月まで収穫が連続することを明らかにした（普及に移す技術第94号、普及技術）。「優良種苗供給事業」では、イチゴのウイルス病検定・炭疽病簡易診断・品種識別（遺伝子診断）を行い、

合格したイチゴ基核苗を公益社団法人みやぎ農業振興公社に供給した。

主要農作物（水稻、麦類及び大豆）関係では、原原種系統の純度の維持及び更新を行うとともに、宮城県が公益社団法人みやぎ農業振興公社に委託している原原種・原種生産作業業務について指導監督を適切に行い、目標とする生産量を確保した。また、指定種子生産ほ場を巡回して審査技術等について助言指導を行った。園芸種苗関係では、公益社団法人みやぎ農業振興公社が行うイチゴ親株苗等の園芸種苗生産に対し指導助言を行った。

3) 園芸栽培部

野菜、花き、果樹を対象にオリジナル品種の育成や生産性の向上、高品質生産を目的とした栽培技術の開発、低コスト、省力化を目的とした施設生産技術に関する試験研究に取り組んだ。先端技術展開事業では、高度な環境制御を行う施設園芸生産技術、省力的な果樹生産技術等の大規模実証研究に取り組んだ。

○平成30年度の概要

野菜では、「健康の維持増進に有用な機能性成分高含有野菜の栽培実証と機能性表示食品の開発」において、機能性関与成分含有量（ルテイン）の高いホウレンソウについて、成分含有量に影響を及ぼす栽培・輸送・調理等の要因を明らかにした。さらに、現地実証試験を行い、県内の1法人で平成31年1月16日に機能性表示食品の表示届けが消費者庁に受理され、生鮮ホウレンソウの機能性表示食品第1号として販売される成果につながった（普及に移す技術第94号、普及技術）。

「本県に適した特徴ある園芸作物のオリジナル品種育成」において開発したイチゴ新品種「ここここベリー」については、生産者16戸により生産物が市場に出荷され、平成30年12月1日にお披露目会が開催されるなどプレデビューを果たした。「高軒高ハウスを活用した果菜類の高収益生産技術の確立」において、平成29年度末に完成した所内高軒高ハウスを使用し、トマト及びパプリカの収量増を目指した栽培管理および環境制御方法を検討する研究を開始した。

花きでは、「夏秋期における小ギクの露地電照栽培体系の確立」において、小ギクの露地電照栽培における8月及び9月の需要期出荷に適する品種と到花日数を明らかにした（普及に移す技術第94号、参考資料）。

果樹では、「宮城から提案する新規園芸品目の生産技術の開発」において、リンゴ、モモ、ナシ、ブドウ、ブルーベリー、イチジクの有望品種を明らかにするとともに（普及に移す技術第94号、普及情報）、リンゴ「サワールージュ」に1-MCPを処理することで、常温貯蔵では70日程度、冷蔵貯蔵では80日以上果実硬度が低下しないことを明らかにした（普及に移す技術第94号、参考資料）。

4) 園芸環境部

環境に係る負担を軽減し、将来にわたって農業生産を維持する環境保全型農業を推進するための研究に取り組んだ。農業の早期復興プロジェクトの一環として、資材施用による除塩効果の確認や放射性物質の農作物への吸収抑制技術を検討した。先端技術展開事業では、大規模施設園芸や露地園芸における病虫害総合管理（IPM）システムの構築に取り組んだ。

○平成30年度の概要

震災からの早期復興のための「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」のうち「社会実装促進業務委託事業」では、イチゴにおける総合的病虫害管理（IPM）について、虫害・病害チーム共同でこれまで開発した個々の病虫害防除技術を体系化した「宮城県いちごIPMマニュアル2019年版」を策定するとともに、展示ほの設置や栽培者等を対象にした研修会を開催し、現地での技術導入を支援した。

土壌分野では、「津波被災農地における土づくり促進及び施肥技術の確立による露地野菜生産安定化」において、地力低下や排水不良が課題となっている津波被災復旧農地にお

ける、ネギの生産を安定化するための施肥方法を検討した。その結果、肥効調節型肥料の局所施肥により、収量性を慣行比15%程度改善することができた。また、「環境にやさしい農業定着促進事業」において、中央農研から提案された畑土壌可給態窒素の簡易評価法が、宮城県の復旧農地を含む露地畑土壌や樹園地土壌でも活用できることを明らかにした（普及に移す技術第94号、参考資料）。

虫害分野では、「農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発」において、振動防除、害虫の嗅覚及び視覚阻害による防除等の新たな害虫防除技術の可能性が示され、次年度以降の本格研究に移行することとなった。また、I P M導入が遅れている果樹害虫では、ハダニ類の薬剤感受性検定を実施し、多くの殺虫剤において県内の複数個体群に対する抵抗性が深刻な状況であることが確認された（普及に移す技術第94号、参考資料）。一方で、果樹での複数の土着天敵の存在を明らかにした（普及に移す技術第94号、普及情報）。

病害分野では、「モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究」において、落葉処理によるナシ黒星病の被害軽減効果について明らかにし、効果的かつ効率的な落葉処理の手法を提案した（普及に移す技術第94号、参考資料）。「果菜類における総合的作物管理を目指した総合的病害管理技術の開発」では、果菜類における化学合成農薬の効果的かつ効率的な使用、あるいは削減を目的とし各種試験を実施した。特に、イチゴでは、宮城県の新品種「にこにこベリー」の病害抵抗性を明らかにし、有効な防除体系を提案した。また、トマトでは、成分カウントされない気門封鎖型薬剤のうどんこ病に対する効果を明らかにした（ともに普及に移す技術第94号、参考資料）。

令和2年3月発行

平成30年度
業 務 年 報

編集兼

発行所

宮城県農業・園芸総合研究所
企 画 調 整 部

〒981-1243

宮城県名取市高館川上字東金剛寺1番地

電 話 022(383)8111

F A X 022(383)9907

e-MAIL marc-fk@pref.miyagi.lg.jp

ホームページ https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/